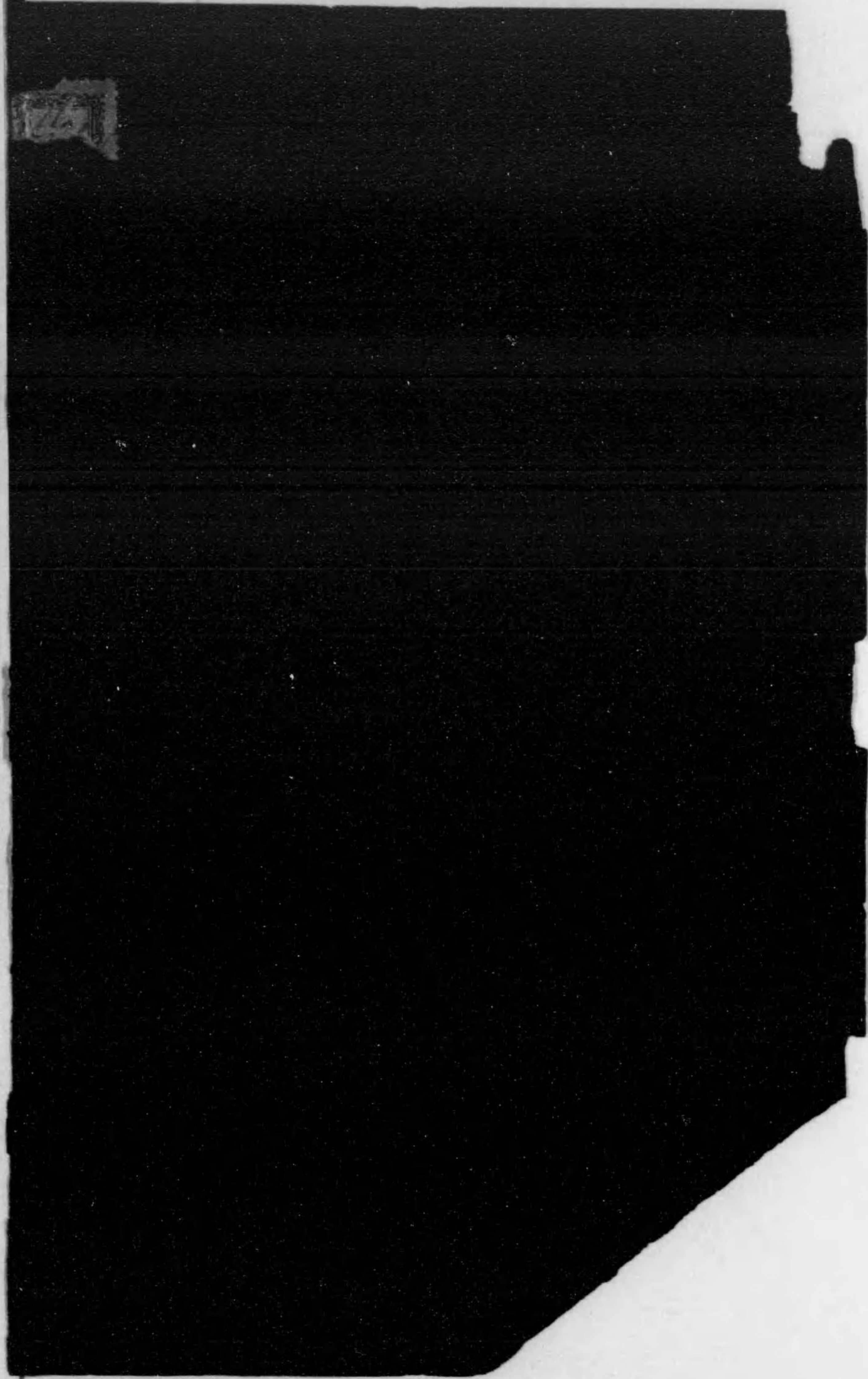


始



大正十年度業務功程

德島縣農事試驗場

142h-350

正 誤 表

頁	正	誤
1 第一表中比較増減三行目	0.236	0×244
8 第一〇純系淘汰第四年第二行	純系ニ付重キテ	純系ニ付繁キテ
9 (六)早生神力種各系統收量成績	系統別第三行第三二號	第二號
9 新關取種各系統收量成績 番號二	系統別第一七號	第一七號
13 第二深耕對肥料用量試驗表中第一行目	反當用量	反高元肥
16 (三)小麥四行目 3	實滿	滿
16 第七麥類品種像備試驗表二行目	八石	大石
20 表第四行目	御切大師	德大師
21 配付品種操性表中第二十一行目	第四百十三號	第四百十三號
22 (第二麥原種圃)表中六行目	採種圃ニ配付0.200	0.220
23 表中第三行目大正十年	1.958	1.950
23 第二石灰窒素肥効試驗表大正九年	二行目 3.052	3.025
32 第一肥料配合試驗大豆粕油粕大正六年	二行 1.563	1.583
36 第一〇石灰連用試驗第一行目	土壤及ノ次ニ作物	物
39 第二委託肥料試驗表中第一行	一升重量 360	560
40 第二蒞弱腐敗病像防試驗第二表試驗別	五行目 一度液	一度液
40 第三石灰ホルト液ニ關スル試驗	三行目 共試品種トシテ	供試品種ヲシテ
52 第六胡蘿蔔品種試驗第一行目	二尺畦二項 二條宛	二條開
52 第七四行目 六日(4)	四回	四日
53 第九三行目堆肥五貫過磷酸	過磷酸石灰	過磷酸石灰
53 第九五行目播種スルニ至リ	其表土	培表土
56 第十二表採集月日平均十一行目	7.1	7.4
60 紅球白菜播種期試驗第四行目	試驗ニ準	ヲ驗



本報告ハ當場ニ於テ施行セル
大正九年度各作及大正十年度
夏作試驗成績並ニ其他ノ事業
ヲ記載シタルモノナリ

大正十二年三月

德島縣農事試驗場



大正十年度業務工程目次

種 藝 部

水 稻 / 部	1
第一 豐凶考照試驗	1
第二 深耕對肥料用量試驗	1
第三 插秧法對肥料用量試驗	2
第四 多收試驗	3
第五 品種比較試驗	4
第六 品種豫備試驗	5
第七 純系淘汰第一年	5
第八 純系淘汰第二年	6
第九 純系淘汰第三年	6
第一〇 純系淘汰第四年	8
陸 稻 / 部	9
第一 栽培法試驗	9
第二 品種比較試驗	10
第三 品種豫備試驗	10
第四 純系淘汰第二年	10
第五 純系淘汰第三年	11
委 托 栽 培 / 部	12
(1) 水 稻	12
(2) 陸 稻	12
麥 / 部	12
第一 豐凶考照試驗	12
第二 深耕對肥料用量試驗	13
第三 麥畦幅對肥料用量試驗	14
第四 麥土入對肥料用量試驗	15
第五 麥多收試驗	15
第六 品種比較試驗	16

第七 麥類品種豫備試驗.....	16
第八 純系淘汰第二年.....	17
第九 純系淘汰第二年.....	17
第一〇 純系淘汰第三年.....	17
第一一 純系淘汰第四年.....	18
第一二 品種委托栽培.....	19
麥 藍ノ部.....	20
第一 藍品種栽培.....	20
原種圃ノ部.....	20
第一 水稻原種圃.....	20
第二 麥原種圃.....	21

農藝化學部

1 水 稻.....	23
甲、圃場試驗.....	23
第一 肥料配合試驗.....	23
第二 石灰窒素肥料試驗.....	23
第三 鹽化滿綠効力試驗.....	24
第四 堆肥料用法試驗.....	24
第五 綠肥對石灰加用試驗.....	25
第六 肥料經濟試驗.....	25
第七 窒素肥料肥効試驗.....	26
第八 磷酸質肥料試効率試驗.....	27
第九 ラヂウム効力試驗.....	27
第一〇 石灰連用肥試驗.....	27
乙、木 框 試 驗.....	28
第一 肥料要素試驗.....	28
第二 磷酸質肥料肥効檢定試驗.....	28
丙、植 木 鉢 試 驗.....	28
第一 酸性土垢矯正試驗.....	28

第二 鹽害濃度試驗.....	29
第三 鹽害時期試驗.....	29
第四 要素試驗.....	30
第五 要素配合比較試驗.....	30
第六 酸磷質肥料比効率檢定試驗.....	30
第七 窒素質肥料肥効率檢定試驗.....	30
丁、委 託 栽 培.....	31
第一 水稻鹽害防除栽培.....	31
第二 水稻肥料要素並肥効比較栽培.....	31
第三 甘藷肥料試驗.....	31
2 麥.....	32
甲、圃 場 試 驗.....	32
第一 肥料配合試驗.....	32
第二 石灰窒素肥効試驗.....	32
第三 鹽化滿綠効力試驗.....	33
第四 堆肥施用試驗.....	33
第五 綠肥對石灰加用試驗跡地比較.....	34
第六 肥料經濟試驗.....	34
第七 窒素質肥料肥効率檢定試驗.....	34
第八 磷酸質肥料肥効率檢定試驗.....	35
第九 ラヂウム効力試驗.....	35
第一〇 石灰連用試驗.....	36
乙、植 木 鉢 試 驗.....	36
第一 酸性土壤矯正試驗.....	36
第二 鹽害濃度試驗.....	36
第三 鹽分被害時期試驗.....	37
第四 要素試驗.....	37
第五 三要素配合比較試驗.....	38
第六 磷酸質肥料肥効率檢定試驗.....	38
第七 窒素質肥料肥効率檢定試驗.....	38

丙、委託栽培.....38

第一 酸性土壌改良作.....38

第二 委託肥料試驗.....39

菌 虫 部

甲、病 害.....39

第一 イモチ病豫防試驗.....39

第二 蒟蒻腐敗病試驗.....40

第三 石灰ボルドウ液ニ關スル試驗.....40

第四 春季發芽前ニ於ケル石灰硫黃合劑使用試驗.....41

第五 銅石鹼液ニ關スル試驗.....41

第六 蒟蒻腐敗病豫防試驗(委託試驗).....42

第七 甘藷黑穗病豫防試驗(委託試驗).....42

第八 麥斑葉病豫防試驗(委託試驗).....43

第九 麥立枯病豫防試驗(委託試驗).....43

第一〇 煙草立枯病豫防試驗(委託試驗).....43

第一一 麥品種ト紅麴病調査.....44

乙、害 虫.....44

第一 藍作害虫調査.....44

第二 二化螟虫發蛾時期調査.....46

第三 二化螟虫加害莖發現時期調査.....46

第四 二化螟虫越冬狀況調査.....47

第五 二化螟虫卵寄生虫蜂調査.....47

第六 二化螟虫二化期ニ於ケル葉鞘變色莖摘採効果ニ關スル調査.....47

第七 稻ノ開花期ニ於テ葉鞘變色莖摘採影響ニ關スル調査.....48

園 藝 部

1、品種ニ關スル試驗.....48

(イ) 夏 作.....48

第一 茄子品種試驗.....49

第二 胡瓜品種試驗.....49

第三 南瓜品種試驗.....50

第四 西瓜品種試驗.....51

第五 菜豆品種試驗.....51

第六 胡蘿蔔品種試驗.....52

第七 牛蒡品種試驗.....52

第八 甘藷品種試驗.....53

第九 春播葱品種試驗.....53

(ロ) 冬 作.....54

第一〇 漬菜品種試驗.....54

甲 結球白菜.....54

乙 普通白菜.....55

第一一 蕪菁品種試驗.....55

第一二 甘藍品種試驗.....56

第一三 秋播葱品種試驗.....57

第一四 葱頭品種試驗.....57

二、栽培法其他ニ關スル試驗.....58

第一 菜菔肥料試驗.....58

第二 白菜肥料試驗.....58

第三 結球白菜播種期試驗.....60

第四 甘藍石灰加用試驗.....60

第五 菜頭苗大小比較試驗.....61

三、採種其他ニ關スル試驗.....62

第一 茄子交配種比較試驗.....62

第二 胡蘿蔔採種試驗.....62

第三 牛蒡採種試驗.....63

第四 菜菔採種試驗.....63

第五 蕪菁採種試驗.....63

第六 葱頭採種試驗.....64

四、委託試驗.....64

第一 菜菔採種試驗.....64

第二 蕪菁採種試驗.....65

五、果 樹.....65

六、種 卵 配 付.....66

庶 務 部

第一 出張ニ關スル事項.....66

第二 質問應答件數.....66

第三 參觀人員.....66

第四 技術員養成.....66

第五 報告類發刊ニ關スル件.....66

第六 本場職員.....67

種 藝 部

水 稻 ノ 部

第一 豐凶考照試驗

本試驗ハ其年ノ豐凶ヲ豫想スル爲毎年同一設計ノ下ニ施行ニ所定ノ時期ニ於テ其生育狀況ヲ調査シ其都度報告發表セリ而シテ本年度收量成績ハ平年ニ比較セバ概要下ノ如シ

品 種 名	反 當 收 量	早 中 晚 各 種 平 均	平 年 收 量	比 較 増 減
小 櫻	1.948	1.757	2.111	△ 0.354
穀 頁 都	1.793			
權 八	2.134			
早 生 神 力	2.188	2.047	2.282	△ 0.241
太 政 官	2.124			
雄 町	1.829			
神 力	2.139	2.049	2.285	△ ×.244
改 頁 神 力	2.253			
讚 岐	1.731			

備考 比較増減欄△印ハ減收ヲ示ス

本年ノ稻作ハ插秧後曇雨天多ク氣温著シク低ク生育不良ナルシガ大暑後氣候適順ニシテ生育良好ニ向エリ然ルニ二百十日以後降雨多ク氣温低下シ結實ニ適セズ爲メニ結局收量ハ早稻一割七分中稻一割一分晚稻一割一分何レモ減收ヲ示セリ

第二 深耕對肥料用量試驗 (繼續第九年)

本試驗ハ耕土ノ深淺ト施肥量トノ關係ヲ知ラントスルニアリ標準肥料反當施用量下ノ如シ

肥 料 名	反 當 用 量	三 要 素 量		
		窒 素	磷 酸	加 里
堆 肥	300.000	1.740	0.900	1.500
練 粕	4.500	0.439	0.182	0.032
大 豆 粕	15.000	1.039	0.198	—

人 尿 尿	150.000	0.855	0.195	0.405
過 燐 酸 石 灰	10.500	-	1.579	-
糞 灰	15.000	-	-	0.734
計		4.084	3.051	2.716

收量成績下ノ如シ

番 號	耕 土 及 肥 料	本 年 度 反 當 收 量	乃大正二年至大正十年 九ヶ年平均
1	八寸耕 肥料五割増	2.399	2.778
2	六寸耕 同 上	2.354	2.703
3	八寸耕 同 三割増	2.601	2.651
4	六寸耕 同 上	2.404	2.585
5	四寸耕 同 上	2.511	2.483
6	八寸耕 同 二割増	2.688	2.472
7	六寸耕 同 上	2.364	2.455
8	四寸耕 同 上	2.287	2.317
9	三寸耕 同 上	1.728	2.254
10	八寸耕 標準肥料	2.138	2.393
11	六寸耕 同 上	2.000	2.401
12	四寸耕 同 上	2.162	2.352
13	三寸耕 同 上	2.097	2.216

備考 供試品種徳島神力第九號トス

上ノ成績ニ依リテ考察スレバ同一施肥量ニアリテハ深耕區程收量多ク亦同一耕深ニアリテハ施肥量ノ増加スルニ從ヒ收量ヲ増加スルヲ示ス而シテ施肥量ト耕深トハ相伴フテ増減スベキモノナルヲ知ル

第 三 挿秧法對肥料用量試験

本試験ハ挿秧方式ト施肥用量トノ關係ヲ驗知セントスルニアリ收量成績下ノ如シ

番 號	試 驗 別	肥 料 用 量	本 年 度 反 當 收 量	自大正八年至大正十年 三ヶ年平均
1	四 十 二 株 植	標準肥料五割増	1.095	1.377
2	四 十 九 株 植	同	1.059	1.663
3	五 十 六 株 植	同	0.983	1.696
4	六 十 四 株 植	同	1.013	1.520
5	七 十 二 株 植	同	1.265	1.996

6	八寸ニ四寸長方形植	同	1.073	2.028
7	九寸ニ四寸長方形植	同	1.273	1.973
8	八寸ニ二寸四方井字型植	同	1.512	2.278
9	九寸ニ二寸四方井字型植	同	1.509	2.123
10	九寸ニ二寸四方井字型植	同	1.621	2.378
11	四 十 二 株 植	標準肥料三割増	1.050	1.741
12	四 十 九 株 植	同	1.014	1.733
13	五 十 六 株 植	同	1.192	1.924
14	六 十 四 株 植	同	1.058	1.987
15	七 十 二 株 植	同	1.788	2.102
16	八寸ニ四寸長方形植	同	1.296	2.062
17	九寸ニ四寸長方形植	同	1.297	2.002
18	八寸ニ二寸四方井字型植	同	1.426	2.101
19	九寸ニ二寸四方井字型植	同	1.688	2.222
20	九寸ニ五寸株井字型植	同	1.879	2.496
21	四 十 二 株 植	標準肥料	1.780	2.391
22	四 十 九 株 植	同	1.689	1.930
23	五 十 六 株 植	同	1.833	2.242
24	六 十 四 株 植	同	1.868	2.113
25	七 十 二 株 植	同	2.002	2.363
26	八寸ニ四寸長方形植	同	1.525	2.246
27	九寸ニ四寸長方形植	同	1.891	2.299
28	八寸ニ二寸四方井字型植	同	1.764	2.383
29	九寸ニ二寸四方井字型植	同	1.866	2.385
30	九寸ニ五寸株井字型植	同	2.018	2.190

備考 標準肥料トハ第二深耕對肥料用量試験ニ示ストコロニ同シ尙本年度ハ稻熱病ノ白葉枯病ノ被害ヲ蒙リ多肥料區程ハ激甚ニシテ一般ニ著シク減收セリ供試品種徳島神力第九號トス

第 四 多 收 試 驗 (大正三年創設 大正九年設計一部變更)

本試験ハ水稻ノ多收栽培法ヲ發見セントスルニアリ收量成績下ノ如シ

番 號	試 驗 別	反 當 肥 料	大正十年度 反當收量	大正九年度 反當收量
1	二寸ニ八寸ノ井字型植	堆 肥 300.000 大 豆 粕 15.000 疎 糞 8.000 過 燐 酸 石 灰 10.000 葉 灰 20.000	2.310	4.736
2	四寸ニ八寸株井字型植		2.393	4.807
3	四寸ニ八寸並列密植		2.861	5.200

備考 供試品種讚岐第一九號、尙本年度ハ稻熱病、白菜枯病ノ被害各區共
激甚ニマテ著シク減收ヲ示セリ

第五 品種比較試験

本試験ハ縣ノ内外ヨリ蒐集セル品種ニ付普通栽培法ニヨリ比較シ以
テ本縣内ニ適スル優良品種ヲ選定セントスルニアリ繼續施行ス
本年度產量成績下ノ如シ

(一) 肥料標準

番 號	品 種 名	反當收量	番 號	品 種 名	反當收量
1	德島權八第一二號	2.028	1 4	宿彌×竹成中第四七號	2.198
2	王 子 權 八	2.190	1 5	德島改良神力第一一號	2.113
3	大場×信州金子早第三號	2.254	1 6	神力×神力竹成晚第七號	2.342
4	龜治×神力中第一七號	2.146	1 7	道海×神力晚 第八號	2.334
5	關取×神力中第五五號	2.180	1 8	道海×神力晚第一二號	2.459
6	德島早生神力第三號	2.338	1 9	德島讚岐第一九號	2.291
7	德島早生神力第一二九號	2.365	2 0	德島讚岐第一四三號	2.359
8	德島雄町第六號	2.023	2 1	大和錦×神力晚第一八號	2.325
9	德島新關取第一七號	2.317	2 2	相 德	2.296
1 0	新關取第四號	2.294	2 3	太 政 官	2.076
1 1	神力×新關取第一七號	2.296	2 4	西 之 宮	2.629
1 2	神力×龜治晚第二號	2.406	2 5	德島神力第九號	2.260
1 3	神力×龜治晚第二二號	2.314			

(二) 肥料ノ三割減

番 號	品 種 名	反當收量	番 號	品 種 名	反當收量
1	德島權八第一二號	2.604	9	道海×神力晚第一二號	2.561
2	王 子 權 八	2.453	1 0	德島改良神力第一一號	2.252
3	德島早生神力第三號	2.339	1 1	神力×神力竹成晚第七號	2.386
4	德島早生神力第一二九號	2.577	1 2	德島神力第九號	2.237
5	德島雄町第六號	2.255	1 3	德島神力第一五六號	2.316
6	德島新關取第一七號	2.096	1 4	西 之 宮	2.661
7	龜治×神力中第一七號	2.335	1 5	德島讚岐第一九號	2.641
8	道海×神力晚 第八號	2.599	1 6	德島讚岐第一四三號	2.746

(三) 肥料ノ五割増

番 號	品 種 名	反當收量	番 號	品 種 名	反當收量
1	德島權八第一二號	1.967	9	德島改良神力第一一號	2.370
2	德島早生神力第三號	2.336	1 0	神力×龜治晚 第二號	2.075
3	德島早生神力第一二九號	2.519	1 1	神力×龜治晚第二二號	2.096
4	德島雄町第六號	1.773	1 2	德島神力第九號	1.784
5	德島新關取第一七號	2.014	1 3	德島神力第一五六號	1.821
6	神力×新關取第四號	2.194	1 4	西 之 宮	2.650
7	相 德	2.222	1 5	德島讚岐第一九號	2.129
8	大 政 官	2.073	1 6	德島讚岐第一四三號	2.518

第六 品種豫備試験

本試験ハ縣ノ内外ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ一本植栽種ヲ行ヒ其成
育狀況特性ヲ調査シ以テ品種比較試験ニ供用スベキ品種ヲ選定セント
スルニアリ

本年度ハ供試八十四種中下記十三品種ヲ選抜セリ

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	穗 長	穗 數
二 千 本	8.28	10.5	2.65	6.5	11.5
長 早 生	8.27	9.26	2.58	7.1	10.2
白 紅 屋	8.31	10.10	2.87	7.2	11.0
神力熊本第一二號	9.3	10.12	2.45	6.9	14.4
旭	9.12	10.19	2.60	6.4	10.0
肥後神力第一一號	9.10	10.20	2.89	7.0	8.8
渡船滋賀第六號	9.9	10.17	2.56	6.8	13.8
畿内晚第三三號	9.11	10.27	2.48	6.6	12.4
畿内晚第三八號	9.11	10.21	2.52	6.3	11.8
畿内晚第一〇二號	9.10	10.21	2.36	6.5	10.8
畿内晚第一〇六號	9.13	10.23	2.36	6.4	12.4
畿内晚第一一〇號	9.10	10.25	2.52	6.5	12.2
虎 丸	9.13	10.28	2.58	6.2	10.5

第七 純系淘汰第一年

本試験ハ在來品種中ヨリ優良純系ヲ撰出センガ爲個體選抜ヲ行ハ
トスルニアリ

本年度功程概要下ノ如シ

番号	品 種 名	初年度栽植株数	撰 抜 株 数
1	神 力	6.000	100
2	楢 八	4.000	100
3	霞 岐	豫備品種試験区	20
4	白 紅 屋	同	15
5	雄 町	同	15
6	旭	同	15
7	大場×信州金子早第三號	同	40

備考 元種子取寄先ノ縣下各地農家

第 八 純系淘汰第二年

本試験ハ前年度撰抜セル株ニツキ株別栽植シ各株ノ遺傳ヲ調査シ以テ優良純系ヲ撰抜セントスルニアリ
本年度功程概要下ノ如シ

番号	品 種 名	栽植系統数	各系統栽植株数	撰抜系統数
1	神 力	115	120	30
2	早 生 神 力	88	120	25
3	西 之 宮	22	120	4
4	猫 又	10	120	4
5	毛 霞	17	120	5
6	虎 丸	14	120	4

第 九 純系淘汰第三年

本試験ハ前年度撰抜セル純系ニ付普通栽培法ニヨリ其優劣ヲ比較シ以テ優良純系ヲ選出セントスルニアリ
本年度功程概要下ノ如シ

(一) 神力種各系統收量成績

番号	系 統 名	玄米反當量	番 號	系 統 名	玄米反當量
1	第 六 號	2.187	1 6	第 六 五 號	2.210
2	第 一 六 號	2.260	1 7	第 六 八 號	2.243
3	第 二 三 號	2.219	1 8	第 七 四 號	2.250

4	第 三 三 號	1.606	1 9	第 八 三 號	2.329
5	第 三 六 號	2.271	2 0	第 八 九 號	2.812
6	第 三 七 號	2.108	2 1	第 九 〇 號	2.613
7	第 三 九 號	2.297	2 2	第 九 五 號	2.341
8	第 四 一 號	2.145	2 3	第 一 〇 〇 號	2.307
9	第 四 三 號	2.363	2 4	第 一 〇 一 號	2.219
1 0	第 五 二 號	2.183	2 5	第 一 〇 六 號	2.561
1 1	第 五 四 號	2.259	2 6	第 一 一 二 號	2.198
1 2	第 五 五 號	2.310	2 7	第 一 一 三 號	2.349
1 3	第 五 七 號	2.388	2 8	第 一 一 四 號	2.303
1 4	第 六 二 號	2.514	2 9	第 一 一 九 號	2.343
1 5	第 六 四 號	2.440	3 0	德島神力第九號	2.310

(二) 改良神力種各系統收量成績

番号	系 統 名	玄米反當量	番号	系 統 名	玄米反當量
1	第 八 號	2.205	1 1	第 四 二 號	2.326
2	第 一 〇 號	2.490	1 2	第 四 五 號	2.135
3	第 一 四 號	2.171	1 3	第 五 〇 號	2.112
4	第 一 六 號	2.263	1 4	第 五 三 號	1.676
5	第 一 九 號	2.328	1 5	第 五 六 號	2.393
6	第 二 二 號	2.208	1 6	第 五 九 號	2.111
7	第 二 三 號	2.283	1 7	第 六 七 號	2.451
8	第 二 七 號	2.310	1 8	第 一 〇 〇 號	2.042
9	第 二 九 號	2.382	1 9	第 一 〇 五 號	2.123
1 0	第 三 八 號	2.537	2 0	德島改良神力第一號	2.160

(三) 倒十種各系統收量成績

番号	系 統 名	玄米反當量	番号	系 統 名	玄米反當量
1	第 三 號	2.212	5	第 二 二 號	2.000
2	第 六 號	2.360	6	第 二 三 號	2.095
3	第 一 一 號	2.122	7	第 三 二 號	1.859
4	第 一 八 號	1.997	8	第 四 〇 號	2.109

(四) 嵯峨種各系統收量成績

番号	系 統 名	玄米反當量	番号	系 統 名	玄米反當量
----	-------	-------	----	-------	-------

1	第四五號	2.487	3	第八二號	2.074
2	第六〇號	2.017	4	第九六號	2.357

(五) 權八種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第一號	2.331	4	第六三號	2.432
2	第一三號	2.393	5	第六四號	2.351
3	第六一號	2.655	6	德島第一二號	2.387

第一〇 純系淘汰第四年

本試験ハ前年度撰抜セル純系ニ付繋ネテ普通栽培法ニヨリ其優劣ヲ比較シ以テ優良純系ヲ選出セントスルニアリ

本年度功程概要下ノ如シ

(一) 神力種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第二三號	2.472	6	第二四八號	2.521
2	第二八號	2.622	7	第三三五號	2.474
3	第四一號	2.593	8	第四一〇號	2.565
4	第六五號	2.486	9	德島神力第九號	2.466
5	第一六二號	2.451			

(二) 改良神力種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第一〇號	2.202	4	第二五號	2.387
2	第一六號	2.199	5	德島改良神力第一一號	2.115
3	第二三號	2.292			

(三) 讚岐種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第四六號	2.515	6	第一〇七號	2.571
2	第五一號	2.453	7	第一一一號	2.527
3	第五四號	2.369	8	第一二〇號	2.425
4	第五八號	2.417	9	淘汰用元種	2.346
5	第八五號	2.555			

(四) 高尾糯種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第一三號	2.358	3	第三八號	2.317
2	第三一號	2.057	4	第三九號	2.152

(五) 太政官種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第二二號	2.220	3	第三九號	2.259
2	第三二號	2.196	4	第四三號	2.259

(六) 早生神力種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第二三號	2.326	4	第四三號	2.428
2	第三〇號	2.314	5	德島早生神力第三號	2.367
3	第二號	2.248			

(七) 雄町種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第五號	2.041	2	第六號	2.202

(八) 新關取種各系統收量成績

番号	系統名	玄米反當量	番号	系統名	玄米反當量
1	第二號	2.266	2	第一七號	2.345

陸 稻 ノ 部

第一 栽培法試験 (繼續第三年)

本試験ハ普通栽培法ト畦幅ノ播幅ヲ異ニシ土入ヲ行フ法トノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

本年度收量成績下ノ如シ

區別	第一區	第二區	第三區
栽培法	普通栽培法	土入廣播法ノ一	土入廣播法ノ二
品種名	九州	同	同
播種期	六月三日	同	同
播種量(反)	四升	五升	同
畦幅	二尺	同	二尺五寸
播幅	三寸	八寸	一尺一寸
除草土入	除草中耕四回 (土入セズ)	除草中耕土入四回	同
玄米反當收量	2.091	1.864	1.932
自大正八年至同十年 三ヶ年平均反當收量	2.123	2.201	2.350

備考 反當肥料用量堆肥200貫ノ大豆粕10貫過燐酸石灰5貫ノ炭灰10貫ヲ
元肥トシ硝酸安母尼亞2貫ヲ追肥トシテ施セリ

第二 品種比較試験

本試験ハ縣ノ内外ヨリ蒐集セル品種ニ付普通栽培法ニヨリ比較シ以テ本縣内ニ適スル優良品種ヲ選出セントスルニアリ
本年度收量成績下ノ如シ

番号	品種名	反當收量	番号	品種名	反當收量
1	大畑早生(粳)	2.225	7	早生江曾島(糯)	2.622
2	花魁(同)	1.701	8	尾張(同)	2.613
3	職捷(同)	2.956	9	團子(同)	1.839
4	職捷穂(同)	3.007	10	凱旋(同)	1.958
5	霧島(同)	1.948	11	霧島第五〇號(同)	1.859
6	九州(同)	1.832	12	岐阜(同)	2.116

備考 本年度ハ出穂期ノ前後二回ノ暴風雨ニ遭シ各品種被害アリ充實不完全ニシテ上表ノ成績ハ正常ノモノニアラズ

第三 品種豫備試験

本試験ハ縣ノ内外ヨリ蒐集セル品種ニ付本植ヲナシ特性ノ比較調査ヲ行ヒ以テ品種比較試験供用品種ヲ選定セントスルニアリ
本年度ハ二十五品種ヲ供試シ各特性ヲ調査セリ尙繼續施行ス

第四 純系淘汰第二年

本試験ハ前年度撰拔セル株ニ付株別栽植シ各株ノ遺傳調査ヲ行ヒ以テ優良純系ヲ撰拔セントスルニアリ
本年度功程概要下ノ如シ

番号	品種名	栽植系統數	各系統株數	撰拔系統數
1	九州	100	100	10
2	岐阜	100	100	10
3	信州	50	100	5

第五 純系淘汰第三年

本試験ハ前年度撰拔セル純系ニ付普通栽培法ニヨリ其優劣ヲ比較シテ以テ優良純系ヲ選出セントスルニアリ
本年度功程概要下ノ如シ

(一) 九州各系統收量成績

番号	系統名	反當收量	番号	系統名	反當收量
1	第五號	2.855	11	第二五號	1.396
2	第六號	2.206	12	第二六號	1.844
3	第八號	2.740	13	第三一號	2.000
4	第九號	2.537	14	第三三號	2.067
5	第一二號	2.243	15	第三四號	1.954
6	第一四號	2.584	16	第三五號	1.708
7	第一六號	2.443	17	第四〇號	2.037
8	第一七號	1.980	18	第四三號	2.163
9	第一八號	2.101	19	九種元種	2.471
10	第一九號	2.062			

(二) 岐阜糯種各系統收量成績

番号	系統名	反當收量	番号	系統名	反當收量
1	第四四號	2.982	10	第五五號	2.403
2	第四五號	3.376	11	第六六號	2.292
3	第四六號	3.321	12	第六七號	2.251
4	第四七號	3.347	13	第六八號	2.381
5	第四八號	2.112	14	第六九號	2.150
6	第四九號	2.750	15	第七一號	1.711

7	第五〇號	3.044	1 6	第七二號	2.031
8	第五一號	2.722	1 7	第七五號	1.995
9	第五二號	2.866	1 8	岐阜元種	2.182

備考 第二品種比較試驗備考ニ同シ

委託栽培ノ部

縣内山間部其他特殊ナル地方ニ適應スル水陸稻ノ良品種ヲ選定センガ爲各地篤農家ニ委託シ水陸稻品種比較試驗ヲ施行セリ

本年度功程概要下ノ如シ

(一) 水 稻

供試品種名	委託者	摘 要
河内太政官 龜治×神力中第一七號 德島晚糯第一號 德島早生神力第三號 虎丸	名西郡神領村 高橋喜一 美馬郡八千代村 丸岡國太郎 那賀郡霧敷町 河井美馬次 同 見能林村 松本近藏 海部郡安喰村 上田圓吉	虎丸ノ外ハ何レモ 優良ナル成績ヲ示 セリ就中龜治×神 力中第一七號及太 政官最モ良好ナリ

備考 那賀郡見能林村ハ鹽害地ナリ尙各地同一品種ヲ栽培セシム

(二) 陸 稻

供試品種名	委託者	摘 要
大畑早生・花魁・戰捷 霧島・凱施・團子	麻植郡山瀬村 石川茂平 板野郡堀江村 上田次郎	大畑早生・霧島團 子等最モ良成績ヲ 示セリ

麥ノ部

第一 豐凶考照試驗

本試驗ハ其年ノ麥ノ豐凶ヲ豫想スル爲毎年同一設計ノ下ニ施行シ所定ノ時期ニ於テ其生育收量ヲ調査シ其都度報告發表セリ

本年度收量成績ハ平年ニ比較セバ概要下ノ如シ

品 種 名	本 年 度 反 當 收 量	麥別三種平均 子實反當收量	子實平年收量	比 較 增 減
白 珍 好	石 2.344	石 -	石 -	石 -

九 州	2.029	2.016	2.289	△ 0.272
香 川	1.674	-	-	-
筑 摩	1.869	-	-	-
珍 好	1.890	1.914	1.941	△ 0.027
寶 滿	1.982	-	-	-

備考 比較増減欄△印ハ減收ヲ示ス

本年ノ麥作ハ播種後及成熟期ニ於ケル天候適順ナリシト雖モ二月上旬以降ノ分蘖成育期間曇雨天多ク土壤濕潤ニ過ギ且肥料切ノ現象ヲ呈シ收量平年ニ比シ裸麥ハ一割一分九厘、小麥ハ一分四厘何レモ減收ヲ示セリ

第二 深耕對肥料用量試驗

本試驗ハ麥作ニ對シ深耕ノ程度ト施肥量トノ關係ヲ查定セントスルニアリ

標準肥料反當施用下ノ如シ

肥料名	反當元肥	元 肥	追 肥	三 要 素 量		
				窒 素	磷 酸	加 里
堆 肥	300.000	300.000	-	1.740	0.900	1.500
大 豆 粕	20.000	20.000	-	1.404	0.264	-
人 糞 尿	150.000	-	150.000	0.855	0.195	0.405
過 燐 酸 石 灰	12.000	12.000	-	-	1.800	-
糞 灰	25.000	-	25.000	-	-	1.228
計	-	-	-	3.999	3.159	3.128

收量成績下ノ如シ

番 号	耕 土	肥 料	子實反當收量	乃大正二年至同九年 八ヶ年平均收量
1	三 寸	標準肥料	石 2.429	石 2.244
2	四 寸	同 上	2.288	2.348
3	六 寸	同 上	2.267	2.245
4	八 寸	同 上	2.149	2.096
5	三 寸	標準三割増	2.493	2.378
6	四 寸	同 上	2.539	2.432
7	六 寸	同 上	2.498	2.417
8	八 寸	同 上	2.444	2.381
9	四 寸	標準五割増	2.532	2.492

10	六	寸	同	上	2.536	2.477
11	八	寸	同	上	2.688	2.543
12	六	寸	標準七割増		2.900	2.598
13	八	寸	同	上	2.748	2.656

備考 供試品種ハ稈白珍好種トス

以上ノ成績ニ依レバ麥ニアリテハ施肥ノ増加ニ伴ヒ收量ヲ増加スルモ深耕ノ効果ハ極メテ尠キガ如シ

第三 麥畦幅對肥料用量試驗 (大正九年創設)

本試驗ハ畦幅並播幅ノ廣狹ニ從ヒ適當ナル施肥用量ヲ知ラントスルニアリ收量成績下ノ如シ

番号	畦幅	播幅	肥料	子實反當收量
1	1.8	1.0	標準肥料	1.564
2	2.0	1.0	同	2.021
3	2.0	1.2	同	1.762
4	2.5	1.2	同	1.352
5	2.5	1.5	同	2.066
6	3.5	0.9二條	同	1.537
7	4.0	1.1二條	同	1.726
8	4.5	1.0二條	同	1.421
9	3.5	條播三條	同	1.593
10	4.0	同	同	2.117
11	1.8	1.0	標準三割増	2.221
12	2.0	1.0	同	1.578
13	2.0	1.2	同	2.082
14	2.5	1.2	同	2.008
15	2.5	1.5	同	1.864
16	3.5	0.9二條	同	1.701
17	4.0	1.1二條	同	2.087
18	4.5	1.0二條	同	1.972
19	3.5	條播三條	同	1.889
20	4.0	同	同	1.939
21	1.8	1.0	標準五割増	2.566
22	2.0	1.0	同	2.394

23	2.0	1.2	同	2.499
24	2.5	1.2	同	2.245
25	2.5	1.5	同	2.543
26	3.5	0.9二條	同	2.814
27	4.0	1.1二條	同	2.241
28	4.5	1.0二條	同	2.000
29	4.5	條播三條	同	2.097
30	4.0	同	同	2.341

備考 標準肥料ハ第二ニ同シ供試品種白珍好種トス

第四 麥土入對肥料用量試驗 (繼續第七年)

本試驗ハ麥土入栽培法ニ對スル適當ナル肥料用量ヲ知ラントスルニアリ收量成績下ノ如シ

番号	試驗別	子實反當收量	自大正三年至同九年七ヶ年平均收量
1	標準肥料	2.490	2.263
2	同 三割増	2.610	2.375
3	同 六割増	2.703	2.534
4	同 九割増	2.592	2.599
5	同 一一割増	2.584	2.743

備考 標準肥料ハ第二ニ同シ畦幅二尺五寸播幅八寸土入五回供用品種稈白珍子種トス

本試驗成績ニ依レバ肥料ヲ増加スルニ從ヒ收量ヲ増加スルガ如シ但シ九割増以上ニアリテハ倒伏ノ危險アリ

第五 麥多收試驗

本試驗ハ裸麥ノ多收栽培法ヲ發見セントスルニアリ收量成績下ノ如シ

番号	試驗別	播種量(反當)	肥料(反當)		子實反當收量	
			田	畑	田	畑
1	畦幅 二尺五寸 播幅 九寸一條	三升五合	各區同一 堆肥 300.000	3.263	2.580	
2	畦幅 二尺五寸 播幅 一尺二寸一條	四升	大豆粕 30.000 過磷酸石灰 15.000	3.700	2.847	
3	畦幅 三尺五寸 播幅 一尺二條	四升	糞尿 30.000 人糞 4.000	3.695	2.508	

備考 整地ノ犁ニテ五寸ノ深サニ耕起二回馬把二回土入四月上旬迄ニ五回行エリ供試品種白珍好種

第六 品種比較試験

本試験ハ縣ノ内外ヨリ蒐集セル品種ニ付普通栽培法ニヨリ比較シ以テ本縣内ニ適スル優良品種ヲ選定セントスルニアリ繼續施行ス本年度收量成績下ノ如シ

(一) 裸 麥

番号	品 種 名	反當收量	番号	品 種 名	反當收量
1	御 大 師	石 1.745	6	土 佐 麥	石 1.617
2	膝 八	1.876	7	共 進 會	1.870
3	影 清	1.979	8	美 人	1.708
4	德 丸	1.994	9	白 朧	1.867
5	坊 主	1.625	10	白 珍 好	2.127

(二) 大 麥

番号	品 種 名	反當收量	番号	品 種 名	反當收量
1	關 取	石 2.598	4	六角シユバリー	石 2.442
2	倍 取	2.706	5	ゴールドン メロン	2.374
3	谷 風	2.386			

(三) 小 麥

番号	品 種 名	反當收量	番号	品 種 名	反當收量
1	香 川 小 麥	石 1.813	4	珍 好	石 1.875
2	筑 摩	2.072	5	相 州	1.897
3	滿	1.340			

備考 裸麥・大麥ハ標準肥料、小麥ハ同二割減肥料ヲ以テ栽培セリ

第七 麥類品種豫備試験

本試験ハ縣ノ内外ニ於ケル優良品種ヲ蒐集シ一本植栽培ヲ行ヒ其成育狀況特性ヲ調査シ以テ品種比較試験ニ供用スベキ品種ヲ選定セントスルニアリ本年度功程概要下ノ如シ

麥 類 別	供試品種數	優 良 ト 認 メ タ ル 品 種 名
裸・ 麥	六五	コピンカタギ、膝八、紅梅、竹下、共進會、大石、大内

大 麥	六 關取、培取
小 麥	八 赤坊主 早小麥 伊賀筑後

第八 純系淘汰第一年

本試験ハ在來品種中ヨリ優良純系ヲ選出センガ爲個体選抜ヲ行ハントスルニアリ

本年度功程概要下ノ如シ

番 號	品 種 名	初年度栽植株數	撰 抜 株 數
1	白 珍 好	2,100	100
2	香 川	2,100	50
3	坊 主	600	30
4	筑 摩	600	30

備考 元種取寄先縣下各地農家

第九 純系淘汰第二年

本試験ハ前年度選抜セル株ニツキ株別栽植シ各株ノ遺傳ヲ調査シ以テ優良純系ヲ選抜セントスルニアリ

番 號	品 種 名	栽植系統數	各 系 統 栽 植 株 數	撰 抜 系 統 數
1	白 珍 好	130	120	25
2	筑 摩	100	108	15
3	寶 滿	50	108	9

第一〇 純系淘汰第三年

本試験ハ前年度撰抜セル純系ニ付普通栽培法ニヨリ其優劣ヲ比較シ以テ優良純系ヲ選出セントスルニアリ

本年度功程概要下ノ如シ

(一) 裸白珍好種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第一三八號	石 1.525	7	第二八九號	石 1.737
2	第二〇一號	1.860	8	第二九九號	1.810

3	第二三六號	1.901	9	第三一七號	1.810
4	第二四三號	1.655	10	第三三四號	1.510
5	第二六七號	1.704	11	第三三六號	1.663
6	第二八七號	1.997			

(二) 裸九州種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第一六號	1.753	5	第一五二號	1.876
2	第一二三號	1.723	6	第一六九號	1.838
3	第一三三號	1.927	7	淘汰用元種	1.719
4	第一五〇號	1.849			

(三) 裸香川種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第六〇號	1.652	5	第七七號	1.612
2	第六七號	1.499	6	第一二一號	1.674
3	第七三號	2.128	7	第一二四號	1.729
4	第七六號	1.931	8	第一二五號	1.727

第一一 純系淘汰第四年

本試験ハ前年度撰抜セル純系ニ付重ネテ普通栽培法ニヨリ其優劣ヲ比較シ以テ優良純系ヲ選出セントスルニアリ
本年度功程概要下ノ如シ

(一) 裸白珍好種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第九號	1.877	14	第六八號	1.394
2	第一三號	1.945	15	第八二號	1.813
3	第一五號	1.798	16	第八三號	1.672
4	第一六號	1.790	17	第八五號	1.718
5	第二四號	1.632	18	第九四號	1.665
6	第三一號	1.711	19	第一〇〇號	1.746
7	第三二號	2.022	20	第一〇四號	1.710
8	第三三號	1.875	21	第一〇五號	1.634

9	第四〇號	1.733	22	第一〇八號	1.768
10	第四七號	1.658	23	第一一三號	1.664
11	第五三號	1.695	24	第一二〇號	1.745
12	第五五號	1.742	25	第一二八號	1.765
13	第六六號	1.725	26	淘汰用元種	1.674

(二) 裸九州種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第六號	1.682	6	第八六號	2.110
2	第一一號	1.014	7	第一〇三號	1.808
3	第一三號	1.477	8	第一〇九號	1.289
4	第四六號	1.316	9	第一一一號	1.643
5	第六一號	1.517	10	淘汰用元種	1.692

(三) 裸養父種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第四一號	1.536	3	第四四號	1.591
2	第四三號	1.395	4	第四五號	1.281

(四) 裸香川種各系統收量成績

番 號	系 統 名	子 實 反 當 量	番 號	系 統 名	子 實 反 當 量
1	第二號	1.895	10	第三九號	2.146
2	第三號	1.791	11	第四一號	2.219
3	第四號	1.737	12	第四三號	2.036
4	第一一號	1.913	13	第四四號	1.874
5	第一五號	2.016	14	第四五號	1.838
6	第一八號	1.757	15	第五三號	1.745
7	第二五號	1.666	16	第五六號	2.011
8	第三三號	1.840	17	第五七號	1.687
9	第三五號	1.968	18	淘汰元種	2.158

第一二 品種委托栽培

縣内山間部其他特殊ナル地方ニ適應スル麥良品種ヲ選定センガ爲各
地篤農家ニ委托シ麥良品種比較試験ヲ施行セリ

本年度功程概要下ノ如シ

供用品種名	委 托 者	摘 要
白珍好第八三號	美馬郡岩倉村 小松 興平	白珍好第八三號御 大師・共進會・等優 長成績ヲ示セリ
白珍好第八五號	三好郡佐馬地村 森 實之藏	
德 大 師 坊 主	那賀郡大野村 阿部 甚太郎	
共 進 會	海部郡日和佐町 杉 内 周吉	

備老 各地同一品種ヲ供用セリ

蓼 藍 ノ 部

第一 藍 品 種 栽 培

本試験ハ各地ノ品種ヲ蒐集シ比較栽培ヲ行ヒ以テ其優劣ヲ査定セン

トスルニアリ

本年度收量成績下ノ如シ

番 號	品 種 名	生葉反當質量	乾葉反當質量
1	柳 葉	354.000	37.920
2	小 丸 葉	420.000	34.275
3	赤 干 本	330.000	32.475
4	オ リ キ 干 本	390.000	40.425
5	百 貫 貫	375.000	36.675
6	青 莖 小 干 本	307.500	33.000
7	紫 小 干 本	405.000	45.750
8	ル ヲ 小 干 本	277.500	31.125
9	小 上 粉	465.000	50.250
10	在 來 種	442.500	38.400

原 種 圃 ノ 部

第一 水 稻 原 種 圃

水稻原種圃ハ名東郡名茂名町東名東ニ設置シ當場ノ直營トス其反別一町歩ニシテ本年度ニ作付シタル品種別反別生産數量及配付數量下ノ如シ

品 種 名	作付反別	生 産 量 石	配 付 量 石	内	
				採種圃ニ配付	當業者ニ配付
德島權八第十二號	6.09	970	861	.846	.015
德島雄町第六號	3.00	820	744	.729	.015
德島早生神力第三號	9.16	2,000	1,919	1,904	.015
德島早生神力第九號	9.15	2,100	1,770	1,752	.018
同改良神力第十一號	13.24	2,470	2,060	2,045	.015
同神力第九號	27.13	7,700	2,950	2,933	.017
同神力第一百五十六號	8.13	2,180	2,082	2,065	.017
同新關取第十七號	10.00	1,700	1,538	1,518	.020
德島讚岐第十九號	6.00	1,370	1,076	1,059	.017
同讚岐第四百四十三號	6.00	1,540	.891	.873	.018
計	100.00	22,850	15,891	15,724	.167

配付品種ノ特性下ノ如シ

品 種 名	特性		出穂期	成熟期	全長	一本穂莖數		穗長	粒着	芒長	脫離粒易	稈色	芒色	糠一升重	玄米品質	腹白無	玄米一升重
	月日	日				尺	本										
德島權八第十二號	8.29	10.5	2.63	5.4	6.38	稍密	稀芒	稍難	淡褐	淡赤	246	上	—	—	—	391	
同雄町第六號	9.4	10.20	3.166	5.8	7.76	稍粗	中芒	中	淡黃	淡黃	243	上	有	—	—	388	
同早生神力第三號	9.4	10.18	2.758	6.8	6.94	中	痕跡	中	黃白	—	259	上	少有	—	—	382	
同早生神力第九號	9.4	10.18	2.824	7.5	6.89	中	無芒痕跡	中	同	—	253	上	同	—	—	380	
同改良神力第十一號	9.10	10.23	3.082	6.5	7.20	中	—	易	同	—	258	上	同	—	—	373	
同神力第九號	9.10	10.23	2.541	9.6	6.55	稍密	—	易	同	—	254	中	同	—	—	372	
同神力第一百五十六號	9.9	10.22	2.531	10.2	6.86	稍密	—	易	同	—	246	中	同	—	—	368	
同新關取第十七號	9.6	10.17	2.732	8.6	6.72	稍密	無芒痕跡	難	同	—	256	上	—	—	—	375	
同讚岐第十九號	9.15	10.28	2.898	8.2	6.17	中	1.16	難	淡黃	濃赤	263	下	有	—	—	381	
同讚岐第四百四十三號	9.14	10.28	2.824	8.5	6.15	中	1.16	難	同	同	268	下	有	—	—	377	

第二 麥 原 種 圃

麥原種圃ハ當場内ニ設置シ其反別五反歩ニシテ本年度ニ作付シタル反別生産數量配付數量下表ノ如シ

品 種 名	作付反別	生産數量	配付數量	内	
				採種圃ニ配付	當業者ニ配付
德島珍好第八十二號	0.704	1.004	0.929	0.926	0.003

同 八 十 三 號	10.25	1.647	1.2315	1.225	0.0065
同 八 十 五 號	10.25	1.699	1.5540	1.546	0.008
德島九州第四十六號	0.205	0.203	0.1530	0.153	—
同 九 州 第 百 十 號	0.205	0.291	0.2335	0.226	0.0095
同 在 來	0.205	0.241	0.2160	0.212	0.004
德島香川裸第七十三號	0.119	0.249	0.2030	0.220	0.003
同 第 七 十 六 號	0.119	0.300	0.2800	0.280	—
同 在 來	0.027	0.182	0.0815	0.060	0.0215
德島養父第五十四號	0.200	0.190	0.1495	0.140	0.0095
同 第 四 十 五 號	0.200	0.140	0.1030	0.103	—
德 島 米 裸	0.100	0.149	0.1260	0.126	—
德 島 筑 摩	0.216	0.294	0.2255	0.213	0.0125
德 島 寶 滿	0.300	0.384	0.3355	0.324	0.0115
計	5.000	6.966	5.8230	5.734	0.089

配付品種ノ特性下ノ如シ

品種名	特性	出穂期	成熟期	草丈	一本穂 莖數	穂長	穂形	莖ノ 細太	芒長	粒ノ 形状	麥ノ 品質	裸小麥
德 島 珍 好		4.27	6. 7	2.837	7.87	1.315	密六條	6.22	1.343	稍丸太	中ノ上	裸
同 第 八 十 二 號		4.26	6. 5	2.826	7.89	1.290	同	6.75	1.274	稍丸太	中ノ中	
同 第 八 十 三 號		4.26	6. 5	2.673	7.51	1.234	同	6.30	1.303	稍長太	中ノ中	
同 第 八 十 五 號		4.30	6. 1	3.174	7.30	1.938	粗六條	6.46	1.468	同	上ノ下	
德 島 九 州		4.28	6. 1	3.444	6.63	1.965	同	6.65	1.425	同	上ノ下	
第 四 十 六 號		4.26	6. 1	3.406	6.15	1.920	同	6.44	1.468	同	上ノ下	
同 第 百 十 號		5. 1	6. 7	2.839	6.10	2.171	粗八條	6.35	1.480	中ノ稍丸	上ノ中	
同 在 來		5. 1	6. 7	2.726	6.27	2.265	同	6.60	1.398	同	上ノ中	
德島香川裸在來		4.30	6. 7	2.590	9.43	2.338	同	5.45	1.504	同	上ノ中	
同 第 七 十 三 號		4.292	6. 4	2.456	5.82	1.571	稍粗六條	6.95	1.480	稍長太	中ノ下	
德 島 養 父		4.291	6. 5	2.531	5.77	1.535	同	5.58	1.581	稍丸太	中ノ上	
第 四 十 四 號		4.266	5.25	3.693	7.86	1.590	稍粗六條	7.26	2.259	稍丸太	上ノ下	
同 第 四 十 五 號		4.239	6.11	2.819	8.73	2.267	錐狀	4.91	1.379	稍小	上ノ中	
德 島 米 裸		5.18	6.20	4.125	8.37	2.558	稍紡維狀	5.05	—	稍大	中ノ上	
德 島 筑 摩												小麥
全 寶 滿												

農藝化學部

1、水 稻

甲、圃場試驗

第一 肥料配合法試驗

本試驗ハ各種肥料ノ配合ヲ異ニシ以テ經濟的ニ最モ効果アル配合法ヲ知ラントスルニアリ而シテ堆肥過磷酸石灰草木灰ヲ以テ三要素ノ欠ヲ補ヘリ其成績左ノ如シ

試 驗 別	大正	大正	大正	大正	大正	大正	平均	順位	
	四年	五年	六年	七年	八年	九年			
1. 大豆粕區	1.600	3.341	1.757	1.346	1.637	2.440	1.909	2.004	7
2. 大豆粕油粕區	1.454	3.313	1.811	1.577	1.526	2.673	1.950	2.045	4
3. 大豆粕人糞尿區	1.623	3.265	1.888	1.453	1.467	2.592	2.052	2.049	3
4. 大豆粕硫安區	1.782	3.131	1.842	1.645	1.751	2.470	2.199	2.117	1
5. 大豆粕鯨粕區	1.427	3.234	1.739	1.408	1.530	2.612	2.235	2.026	6
6. 油粕人糞尿區	1.146	3.122	1.684	1.642	1.531	2.592	2.262	1.997	8
7. 油粕鯨粕區	1.270	2.997	1.967	1.351	1.619	2.620	2.398	2.032	5
8. 油粕硫安區	1.890	3.154	2.091	1.380	1.591	2.433	2.261	2.114	2
9. 鯨粕硫安區	1.253	3.171	1.787	1.338	1.768	2.497	2.679	1.985	9
10. 鯨粕人糞尿區	1.035	3.223	1.888	1.570	1.708	2.582	2.174	2.026	6

大豆粕ヲ配合セル區ハ常ニ優良ナル成績ヲ示セリ之レニ配合スルニ人糞尿ヲ以テスベシ

第二 石灰窒素肥効試驗

石灰窒素ト他ノ窒素質肥料トノ肥効ヲ比較シ尙石灰窒素ノ取扱上ヨリ來ル肥効ノ差異ヲ知ラントスルニアリ而シテ共通補助肥料トシテ各區ニ堆肥 250 貫過磷酸石灰10貫草木石灰12貫ヲ施用シ尙大豆粕及硫安區ニハ石灰窒素中ニ含有セラル、石灰量ニ相當スル石灰量4貫800匁ヲ施用セリ

試 驗 別	累 年 成 績				平均	順位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
大 豆 粕 區	2.051	1.748	3.025	2.031	2.221	4

區	1.925	1.537	2.425	2.183	2.018	5
石灰窒素全部原肥區	2.140	1.768	2.904	2.593	2.351	2
石灰窒素ヲ風乾堆肥ト混シ移植前日施用區	2.217	1.836	2.722	2.662	2.359	1
同上處理半分原肥半分追肥施用區	2.160	1.909	2.675	2.412	2.289	3

石灰窒素ハ其効果殆ト大豆粕ニ及ブ且ツ原肥ニ施用スレバ效果最大ナルモノ、如シ

第三 鹽化滿俺効力試験

鹽化滿俺ノ刺戟効力ヲ查定センガ爲メニ該肥料ヲ量及ビ時季ヲ異ニテシ施用シ適量及適期ヲ知ラントシ各區共堆肥大豆粕人糞尿過磷酸石灰草木灰ヲ以テ窒素磷酸加里ヲ等量ニ充分施用セリ

試驗別	累年成績				平均	順位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
標準區	1.705	1.630	2.804	1.969	2.027	1
五百匁(穗孕期)區	1.300	1.603	2.738	2.044	1.921	4
壹貫匁 $\left\{ \begin{array}{l} \frac{1}{2} \text{元肥} \\ \frac{1}{2} \text{追肥} \end{array} \right\}$ 區	1.616	1.549	2.605	1.810	1.895	5
壹貫匁(穗孕期)區	1.643	1.575	2.712	2.000	1.982	2
壹貫五百匁區	1.730	1.551	2.673	1.956	1.978	3

鹽化滿俺ノ効力ヲ認メズ

第四 堆肥施用法試験

堆肥ノ施用ニ適當ナル時季及用量ヲ知ラントスルニアリテ五區ヲ一組トシ以テ二組ノ試験ヲナセリ

試驗別	累年成績				平均	順位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
標準(無加用)區	1.639	1.612	2.632	2.138	2.005	5
原肥區	1.890	1.894	2.628	2.389	2.200	2
半分原肥半分追肥區	1.720	1.750	2.696	2.303	2.117	4
全部追肥(一回)區	1.824	1.805	2.683	2.505	2.204	1
全部追肥(二回)區	1.778	1.755	2.690	2.475	2.175	3

上表ニ依リテ見レバ堆肥ハ原肥ニ施用スルヲ可トス

第五 綠肥對石炭加用試験

綠肥施用ニ際シ生育ノ遲延青米ヲ生ズル等ノ有害作用多シサレバ之レガ濟救法トシテ如何ニシテ速カニ腐敗セシムルカ又石灰ヲ加ヘテ腐敗分解ノ遲速並ニ肥効ヲ知ラントス及各綠肥ノ効果ヲモ比較セントス

試驗別	累年成績				平均	順位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
麥間紫雲英區	0.518	1.288	2.479	0.723	1.252	8
同石灰加用區	0.587	1.463	2.525	1.622	1.549	7
青刈大豆區	0.829	1.483	2.552	1.856	1.680	4
同石灰加用區	0.897	1.581	2.449	2.058	1.746	2
麥間苜蓿區	1.030	1.509	2.518	2.518	1.714	3
同石灰加用區	1.127	1.656	2.699	2.699	1.899	1
麥間大豆區	0.677	1.514	2.638	2.638	1.630	5
同石灰加用區	0.654	1.525	2.544	2.544	1.562	6

第六 肥料經濟試験

稻作上金肥ヲ節約シ經濟的栽培法ヲ行ハシムルニハ如何ナル肥料ヲ配合施用スベキカヲ試験シ但シ各區共堆肥過磷酸石灰草木灰ハ必ズ併用セリ、今收量價格ト肥料代トノ差引殘差ヲ示セバ次表ノ如シ

試驗別	六年度	七年度	八年度	九年度	十年度	平均	順位
普通肥料區	30.290	84.438	77.450	66.610	57.840	63.326	3
大豆粕人糞尿區	41.710	76.991	79.100	37.740	54.240	57.956	9
大豆粕石灰窒素區	39.930	76.897	90.250	51.130	52.740	62.189	5
紫雲英區	37.690	73.653	76.150	44.850	65.370	59.543	7
山草區	37.570	71.136	78.700	32.660	39.290	51.920	12
青刈大豆區	40.250	75.302	69.650	44.285	45.670	55.032	11
堆肥人糞尿區	40.720	75.308	80.600	42.032	58.060	69.344	1
醬油粕區	43.920	71.228	92.300	47.720	53.650	61.764	6
鷄糞區	42.400	76.115	98.550	40.100	63.440	64.121	2
稻藁區	25.000	72.571	82.450	19.610	21.490	44.224	13
燐炭肥料區	33.680	78.258	79.700	45.275	57.590	58.901	8
米糠人糞尿區	38.180	75.079	93.050	54.550	27.740	57.720	10
米糠區	37.820	84.061	77.200	59.220	55.440	62.748	4

尙收量ヲ示セバ次表ノ如シ

試 驗 別	累 年 成 績					平 均	順 位
	六年度	七年度	八年度	九年度	十年度		
普通肥料區	2.042	2.306	1.967	3.323	2.521	2.433	1
大豆粕人糞尿區	2.482	2.077	1.942	2.176	2.251	2.186	10
大豆粕石灰窒素區	2.406	2.059	2.146	2.632	2.223	2.293	4
紫雲英區	2.317	2.071	1.891	2.662	2.772	2.343	2
山 草 區	2.311	2.041	1.950	2.432	2.292	2.203	8
青刈大豆區	2.535	2.044	1.736	2.697	2.332	2.269	5
堆肥人糞尿區	2.446	2.036	2.011	2.338	2.365	2.245	6
醬油粕區	2.486	1.836	2.085	2.411	2.141	2.192	9
鷄 糞 區	2.375	1.935	2.180	2.020	2.254	2.153	11
稻 糞 區	1.810	1.997	2.031	2.377	2.120	2.047	13
燻炭肥料區	2.109	2.056	1.952	2.134	2.049	2.060	12
米糠人糞尿區	2.309	2.103	2.225	2.545	2.402	2.317	3
米 糠 區	2.291	2.197	1.940	2.686	2.067	2.237	7

第七 窒素質肥料肥効率試験

各種ノ窒素質肥料中ニ含有セル窒素成分ノ一定量ヲ供給シテ水稻ヲ栽培シ各區ヨリ生産セル玄米收量ノ比ヲ見テ互ニ肥効ヲ知ラントスルニアリ

過磷酸石灰及草木灰ニテ磷酸分及加里分ヲ各々二貫五百匁ヲ各區ニ施用シ窒素ハ各種肥料ニテ窒素二貫五百匁ヲ施ス四ケ年間ノ成績左ノ如シ

試 驗 別	累 年 成 績					平 均	順 位
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
硫 安 區	2.163	1.556	1.716	2.087	2.091	1.923	7
大 豆 粕 區	2.152	1.830	2.053	2.275	2.316	2.129	2
鍊 粕 區	2.054	1.644	1.624	2.035	2.144	1.902	8
石 灰 窒 素 區	1.810	2.098	1.735	2.181	2.145	1.994	5
人 糞 尿 區	1.788	1.762	1.659	1.836	1.625	1.734	13
智 利 硝 石 區	1.706	1.563	1.585	1.791	1.523	1.634	14
厩 肥 區	1.890	1.857	1.641	2.115	1.854	1.871	11
厩 鍊 區	1.264	2.100	2.164	2.508	2.427	2.093	3
油 粕 區	1.880	2.133	1.864	2.296	2.050	2.045	4

燒 耐 粕 區	1.735	2.095	1.213	1.721	1.971	1.742	12
醬 油 粕 區	1.815	1.943	1.978	2.058	1.927	1.944	6
紫 雲 英 區	1.888	1.838	1.546	2.067	2.168	1.901	9
鷄 糞 區	1.881	1.769	1.753	1.883	2.139	1.885	10
乾 血 粉 區	2.149	2.001	2.297	2.331	2.180	2.192	1
無 窒 素 區	1.421	1.636	1.311	1.721	1.526	1.523	15

此ノ成績ニ依レバ乾血粉區最良ニシテ大豆粕油粕厩鍊區之ニ次グリ智利硝石燒耐粕區劣レリ然レ共燒耐粕ニ就テハ尙吟味ヲ要ス

第八 磷酸質肥料肥効率試験

各種ノ磷酸質肥料ノ肥効ヲ知ラントスルニアリ各區共通補肥トシテ堆肥百貫大豆粕貳拾貫硫酸安五貫草木灰貳拾五貫ヲ施用セリ

試 驗 別	累 年 成 績				平 均	順 位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
過磷酸石灰區	1.152	2.058	2.281	2.140	1.908	2
蒸製骨粉區	1.025	2.260	2.275	1.809	1.842	3
米 糠 區	0.948	2.590	2.316	1.952	1.952	1
無 磷 酸 區	1.200	1.698	2.381	1.782	1.765	4

第九 ラヂウム効力試験

ラヂウムノ刺戟効力ヲ知ランガ爲メラヂウム鑛泥ニ付キテ試験ス

試 驗 別	累 年 成 績				平 均	順 位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
無 加 用 區	2.111	2.037	2.336	2.167	2.163	2
三 百 匁 區	2.151	1.953	2.098	2.180	2.096	3
五 百 匁 區	2.249	1.872	2.311	2.348	2.195	1
一 貫 匁 區	1.916	1.967	2.386	2.081	2.088	4
一 貫 五 百 匁 區	1.852	1.876	2.177	1.982	1.972	5

上表ニ見ル如クラヂウムノ効力ヲ認メズ

第一〇 石炭連用試験

普通肥料ノ外年々石灰ヲ加フル時ハ土壤及作物ニ如何ナル影響ヲ來スカヲ知ラントスルニアリ

試 驗 別	累 年 成 績				平 均	順 位
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年		
無 石 灰 區	1.872	2.108	2.493	2.026	2.125	2
二 十 五 貫 匁 區	2.130	2.203	2.424	2.061	2.205	1
五 十 貫 匁 區	1.911	2.228	2.298	1.968	2.101	4
百 貫 區	1.869	2.249	2.322	2.605	2.111	3

乙、木 框 試 驗 (三尺平方)

第 一 肥 料 要 素 試 驗

試 驗 別	收 量 成 績		平 均	順 位
	大正九年	大正十年		
完 全 區	133	140	137	2
無 望 素 區	105	113	109	6
無 磷 酸 區	141	131	136	3
無 加 里 區	133	104	119	4
無 石 灰 區	112	121	117	5
無 肥 料 區	113	98	106	7
有 機 物 區	149	138	144	1

第 二 磷 酸 質 肥 料 肥 効 檢 定 試 驗

試 驗 別	收 量 成 績		平 均	順 位
	大正九年	大正十年		
過 磷 酸 石 灰 區	119	125	124	3
磷 礦 粉 區	132	124	128	2
磷 礦 ア ル ミ ナ 區	130	118	124	3
生 骨 粉 區	138	135	137	1
無 磷 酸 區	125	121	123	4

丙、植 木 鉢 試 驗 (二万分ノ一)

第 一 酸 性 土 壤 矯 正 試 驗

酸性土壤ニ對スル石灰ノ中和効力ヲ知ラントス
供試作物 水稻

試 驗 別	粗 重	粗 容	葉 重
原 土 其 儘 區	2.1	10	3.6
中 和 量 ノ 二 分 ノ 一 石 灰 加 用 區	3.4	19	3.9
中 和 量 ノ 石 灰 加 用 區	3.2	27	9.1
中 和 量 ノ 一 倍 半 量 石 灰 加 用 區	2.9	24	8.7
中 和 量 ノ 二 倍 量 石 灰 加 用 區	3.7	31	9.0
中 和 量 ノ 三 倍 量 石 灰 加 用 區	2.5	17	5.5
中 和 無 肥 料 區	2.3	17	3.5

第 二 塩 害 濃 度 試 驗

塩分ノ及ブ被害濃度ヲ知ラントス
供試作物 水稻

試 驗 別	粗 重 量 累 年 成 績			平 均	試 驗 別	粗 重 量 累 年 成 績			平 均
	大正八年	大正九年	大正十年			大正八年	大正九年	大正十年	
標 準 區	9.6	11.0	9.5	10.0	0.3% 區	7.8	1.0	—	2.9
0.05% 區	10.4	13.0	9.8	10.9	0.4% 區	8.0	—	—	2.6
0.1% 區	8.0	10.0	12.0	10.0	0.5% 區	13.0	—	—	4.3
0.2% 區	14.0	12.0	3.0	9.6					

20.4%區及0.5%區ハ共ニ枯死セリ

第 三 塩 害 時 期 試 驗

塩害ト稻ノ生長時季トノ間ニ於ケル關係ヲ知ラントスルニアリテ各
區共3%ノ塩化ナトリウム溶液ヲ各季ヲ異ニシテ施セリ

試 驗 別	粗 重 量 累 年 成 績				平 均
	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	
標 準 區	3.5	9.0	9.0	14.0	8.9
移 植 直 後 區	1.9	21.0	2.2	3.0	7.0
分 蘖 期 區	2.7	14.0	7.0	13.0	9.7
伸 長 期 區	3.0	12.0	8.5	9.0	8.1
穗 孕 期 區	2.5	12.0	4.0	8.0	6.6
出 穗 期 區	3.2	12.0	7.0	10.0	8.1
乳 熟 期 區	2.9	15.0	7.0	12.0	9.6

移植直後區ハ大正八年度ニ於テ突飛ナル收量アリシ爲平均數ニ於テ

大ナル數ヲ示セ其他ノ二ケ年、共ニ最劣等ナレバ移植後ニ於テ被害最大ナリト云ヒツベシ

第四 要素試驗

試驗別	平均收量					試驗別	平均收量				
	七年	八年	九年	十年	平均		七年	八年	九年	十年	平均
完全區	5	7.2	8.0	8.8	7.3	無石灰區	5	5.2	6.9	5.9	5.5
無窒素區	3	5.1	3.5	4.3	4.0	無肥料區	3	2.8	3.4	2.7	3.0
無磷酸區	5	7.1	7.5	7.3	6.7	有機物區	7	6.7	8.4	9.1	7.8
無加里區	7	6.6	7.2	7.7	7.0						

第五 要素配合比試驗

肥料要素ノ配合割合ハ種々ノ條件ニヨリ一様ナラズ故ニ當地方ニ於ケル土壤ニ對シテ適當ナル割合ヲ定メントス

試驗別	累年成績				試驗別	累年成績			
	八年	九年	十年	平均		八年	九年	十年	平均
玄米二石五斗中ノ要素量區	15.0	21.0	18	18	窒素多用區	5.0	2.0	3	3
三要素肥料ノ結果區	18.0	23.5	22	21	磷酸多用區	15.0	19.5	19	15
當場普通肥料區	17.0	18.7	19	18	磷酸加里多用區	11.0	15.5	21	16
當地方農家ノ比區	7.5	16.5	17	14					

第六 磷酸質肥料肥効率檢定試驗

試驗別	穀量累年成績					試驗別	穀量累年成績				
	七年	八年	九年	十年	平均		七年	八年	九年	十年	平均
無磷酸區	2.5	7.0	7.0	5.2	5.4	蒸製骨粉區	3.0	6.0	6.8	7.5	5.8
過磷酸石灰區	3.0	4.8	7.9	8.7	6.1	米糠區	2.8	3.0	6.1	6.9	4.7

第七 窒素質肥料肥効率檢定試驗

試驗別	收量成績			試驗別	收量成績		
	九年	十年	平均		九年	十年	平均
無窒素區	4.0	4.5	4.3	硫安區	4.2	6.5	5.4
大豆粕區	5.7	7.3	6.5	人糞尿區	3.5	5.7	4.6
糠粕區	5.3	7.7	6.5	石灰窒素區	6.7	7.6	7.2

丁、委託栽培

第一 水稻鹽害防除栽培

委託者 板野郡松茂村 田中賀一郎氏

水稻ニ於ケル鹽害ヲ肥料ニヨリ防除セント試タリ

試驗別	累年成績							
	四年	五年	六年	七年	八年	九年	十年	平均
普通肥料區	1.524	2.643	1.63	1.951	3.265	3.006	2.136	2.174
無機性酸性肥料區	1.550	2.523	1.777	1.996	3.186	2.865	2.209	2.300
有機性酸性肥料區	1.450	2.612	1.483	1.619	3.160	2.565	2.210	2.157
普通肥料過磷酸石灰區	1.514	2.568	1.639	1.710	3.615	2.753	1.919	2.24
普通肥料石膏加用區	1.260	2.180	1.550	1.656	3.111	2.820	1.969	1.935
普通肥料硫酸加用區	-	-	-	1.557	3.329	3.083	2.098	2.517

第二 水稻肥料要素並肥効試驗成績

縣下ヲ通ジテ左記二十名ノ諸氏ニ委託セリ

野尻茂一郎(海部郡)原祐次郎(海部郡)渡邊節三郎(勝浦郡)東猪太郎(那賀郡)大西時太郎、鳥羽長次郎、田村義雄、木村新次、高橋芳郎、深見兵衛、古林和平、横井梅五郎、藤田乾一、吉岡隆太郎(以上板野)名西郡立農産學校、阿波郡農會、阿部藤三郎(麻植)柴田清平(麻植)川入金藏(三好)佐馬地佐野下組農會(三好)

以上二十ヶ所ノ平均成績ヲ示セバ次ノ如シ

要素試驗				肥効試驗			
試驗別	九年	十年	平均	試驗別	九年	十年	平均
四要素區	2.459	1.610	2.035	基本肥料區	2.791	2.940	2.865
無窒素區	2.736	2.020	2.378	大豆粕區	3.003	3.450	3.227
無磷酸區	2.899	3.040	2.970	糠粕區	3.048	3.610	3.329
無加里區	2.866	2.940	2.923	硫安區	2.959	3.680	3.200
無石灰區	2.877	2.670	2.773	綠肥區	2.920	3.620	3.270
無肥料區	3.032	3.160	3.096	油粕(總實區)	2.948	2.920	2.934

第三 甘藷肥料試驗

試 驗 別	個 數 (反 當)			重 量 (反 當)		
	大	中	小	大	中	小
無 肥 料 區	900	4100	5800	54.00	113.00	69.50
無 窒 素 區	1200	4900	7600	77.00	147.00	91.50
無 磷 酸 區	1400	5200	5900	89.00	161.00	71.00
無 加 里 區	1360	6700	7200	92.00	210.00	86.00
無 石 灰 區	1700	8600	9900	120.00	249.00	129.00
完 全 區	1600	16700	9700	116.00	502.00	126.00
過 磷 酸 石 灰 區	1500	12700	14900	109.00	418.00	186.00
基 本 肥 料 區	2400	13000	15700	164.00	471.00	190.00
蒸 製 骨 粉 區	1600	19200	10600	116.00	721.00	172.00
硫 安 區	1500	13800	21400	120.00	514.00	268.00
鯀 粕 區	1300	22700	9800	97.00	861.00	137.00
米 糠 區	700	17600	14200	62.00	628.00	185.00
硫 酸 加 里 區	800	20900	18700	60.00	762.00	224.00
大 豆 粕 區	1000	16300	13000	68.00	498.00	169.00
人 糞 尿 區	300	9700	20400	23.00	320.00	264.00

2、 麥

甲、圃場試驗

第一 肥料配合試驗

各種肥料ノ配合ヲ異ニシ其効果ヲ比較セントス

試 驗 別	累 年 成 績					順 位
	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	平 均	
大 豆 粕 區	1.636	1.609	1.050	1.245	1.385	5
大 豆 粕 油 粕 區	1.583	1.375	1.087	1.085	1.252	10
大 豆 粕 人 糞 尿 區	1.589	1.587	1.014	1.136	1.332	7
大 豆 粕 智 利 硝 石 區	2.003	1.759	1.195	1.318	1.596	1
大 豆 粕 鯀 粕 區	—	1.815	1.395	1.242	1.484	4
油 粕 人 糞 尿 區	1.454	1.658	0.920	1.028	1.265	9
油 粕 鯀 粕 區	—	1.584	1.020	1.294	1.299	8
油 粕 智 利 硝 石 區	1.776	1.714	1.197	1.495	1.546	3
鯀 粕 智 利 硝 石 區	—	1.615	1.475	1.521	1.549	2
鯀 粕 人 糞 尿 區	—	1.667	1.160	1.215	1.347	6

大豆粕ノ配合區及智利硝石ノ配合區可ナリ

第二 石灰窒素肥効試驗

石灰窒素ト他ノ窒素質肥料トノ肥効ヲ見尙ホ石灰窒素ノ取扱上ヨリ來ル肥効ノ差異ヲ知ラントスルニアリ

試 驗 別	六年度	七年度	八年度	九年度	平 均	順 位
大 豆 粕 區	1.500	1.666	1.313	1.258	1.429	3
智 利 硝 石 區	1.730	1.816	1.395	1.611	1.638	1
石 灰 窒 素 全 部 原 肥 區	1.682	1.935	1.452	1.509	1.445	2
石 灰 窒 素 + 風 乾 堆 肥 + 混 沓 移 植 前 日 施 用 區	1.038	1.544	1.048	0.754	1.096	5
同 上 處 理 半 分 原 肥 半 分 追 肥 區	1.021	1.266	1.140	1.273	1.175	4

石灰窒素ハ其効大豆粕智利硝石ニ優ルモ原肥トスベシ

第三 鹽化滿俺効力誠驗

本試驗ハ鹽化滿俺ノ刺戟効力ヲ知ランガ爲ニ行フ

試 驗 別	六年度	七年度	八年度	九年度	平 均	順 位
無 加 用 區	1.178	1.700	0.869	1.105	1.221	5
五 百 匁 加 用 區	1.635	1.800	1.070	1.052	1.389	4
一 貫 匁 加 用 區 $\left\{ \begin{array}{l} \frac{1}{2} \text{元} \\ \frac{1}{2} \text{匁} \end{array} \right.$	1.562	1.718	1.040	1.473	1.448	3
一 貫 匁 (穗 孕 期) 區	1.728	1.660	1.119	1.502	1.502	2
一 貫 五 百 匁 區	1.676	1.658	1.232	1.522	1.597	1

鹽化マンガンハ效果アリ其量ハ一貫五百匁内外

第四 堆肥施用法試驗

堆肥施用ノ適當ナル時季及數量施用法ヲ知ラントスルニアリ

試 驗 別	六年度	七年度	八年度	九年度	平 均	順 位
無 堆 肥 區	1.793	1.691	1.192	1.038	1.429	8
原 肥 區	2.018	1.771	1.187	0.942	1.480	6
半 分 原 肥 半 分 追 肥 區	1.829	1.717	1.125	1.208	1.470	7
全 部 追 肥 (一 回) 區	1.777	1.617	1.102	1.036	1.383	10

全部追肥(二回)區	1.778	1.605	1.140	1.081	1.410	9
原肥區	2.069	1.456	1.212	1.367	1.526	5
堆肥多用原肥區	2.006	1.662	1.227	1.432	1.582	2
堆肥多用半分原肥半分追肥區	2.023	1.528	1.349	1.394	1.574	3
堆肥多用追肥(一回)區	2.020	1.704	1.305	1.470	1.625	1
堆肥多用追肥(二回)區	2.069	1.587	1.048	1.525	1.557	4

堆肥ハ原肥トスベシ、上表ニテハ追肥トシテ一回ニ施用セルモノ、一ハ最良ヲ示スモ他ハ最下ヲ示セリ故ニ追肥一回ニ施用スルハ良シト云ヒ能ハズ

第五 綠肥對石灰加用試驗跡地比較

夏作ニ對シテ行ヒタル全試驗ノ結果ガ冬作ニ及ブ關係ヲ見ントス、本年度ヨリ施行ス

試驗別	八年	九年	平均	順位	試驗別	八年	九年	平均	順位
麥間紫雲英區	1.008	1.218	1.113	7	麥間苜蓿區	1.082	0.949	1.016	8
同石灰加用區	1.218	1.115	1.167	2	同石灰加用區	1.075	1.191	1.133	5
青刈大豆區	1.140	1.092	1.116	6	麥間大豆區	1.081	1.200	1.141	4
同石灰加用區	1.140	1.299	1.220	1	同石灰加用區	1.231	1.083	1.157	3

石灰加用セル跡ハ成績無加用區ニ勝レリ

第六 肥料經濟試驗

試驗別	經濟的調査				收量調査			
	七年度	八年度	九年度	平均	七年度	八年度	九年度	平均
普通肥料區	34.200	7.828	1.520	14.516	1.687	1.212	1.416	1.438
大豆粕人糞尿區	20.300	8.910	0.830	10.013	1.135	1.133	1.192	1.153
大豆粕石灰窒素區	31.440	8.440	4.140	14.673	1.486	1.079	1.388	1.318
紫雲英區	18.050	2.960	(-)5.280	5.243	1.097	0.891	1.082	1.023
山草區	25.580	(-)1.520	(-)2.480	7.193	1.366	0.674	1.296	1.112
青刈大豆區	21.620	2.390	(-)8.260	5.250	1.241	0.900	1.008	1.050
人糞尿區	31.590	2.020	5.180	12.930	1.543	0.836	1.374	1.251
醬油粕區	30.710	8.500	3.150	14.120	1.333	0.889	1.088	1.103
鷄糞區	27.980	4.540	3.460	11.886	1.232	0.676	0.966	0.958
稻糞區	16.800	5.080	(-)9.520	4.120	0.980	0.884	0.944	0.936

燐炭肥料區	19.620	(-)0.818	(-)0.780	6.010	1.141	0.690	0.704	0.854
米糠人糞尿區	39.260	4.930	5.800	16.660	1.787	0.964	1.300	1.350
米糠區	29.330	2.520	6.920	12.920	1.511	0.926	1.236	1.224

但(一)印ヲ附セルモノハ損ヲ示ス

要スルニ此ノ試驗ハ金肥ヲ節約シ經濟的栽培法ヲ行ハシムニハ如何ナル肥料ヲ以テ得策トスルヤヲ知ラントスルニアリテ上表中ノ經濟的調査ハ收量價格ヨリ肥料代ヲ差引ケル殘金ヲ示ス

第七 窒素質肥料肥効率檢定試驗

試驗別	六年度	七年度	八年度	九年度	平均	順位
硫安區	2.072	1.942	1.377	2.034	1.856	1
大豆粕區	1.802	1.800	0.746	1.302	1.413	6
鍊粕區	1.870	1.696	0.758	1.401	1.441	5
石灰窒素區	1.919	1.907	0.914	1.618	1.590	2
人糞尿區	1.705	1.370	0.740	1.392	1.302	9
智利硝石區	1.075	1.200	1.311	1.986	1.394	7
厩肥區	0.880	1.169	0.526	0.826	0.850	14
腐鍊區	1.421	1.685	0.952	1.950	1.502	4
油粕區	1.518	1.238	0.826	1.176	1.190	11
燒酎粕區	1.518	2.148	1.065	1.566	1.574	3
醬油粕區	1.207	0.656	1.756	1.164	1.196	10
紫雲英區	2.035	0.662	0.610	1.386	1.173	12
鷄糞區	1.241	1.031	0.487	0.828	0.897	13
乾血粉區	1.719	0.990	0.780	1.842	1.333	8
無窒素區	0.592	0.600	0.250	0.078	0.380	15

第八 磷素質肥料肥効率檢定試驗

試驗別	六年度	七年度	八年度	九年度	平均	順位
過磷酸石灰區	1.776	2.331	1.160	1.346	1.653	1
蒸製骨粉區	1.131	2.541	1.268	1.296	1.561	3
米糠區	1.428	2.540	1.302	1.245	1.626	2
無磷區	1.368	2.386	1.191	1.242	1.547	4

蒸製骨粉區劣レルモ漸次其効果顯レルヲ見ル

第九 ラチウム効力試験

ラチウムノ刺戟効力其量ヲ知ラントス

試験別	六年度	七年度	八年度	九年度	平均	順位
無加用區	石 1.774	石 1.728	石 0.843	石 1.272	石 1.404	2
三百匁區	1.691	1.575	0.820	1.272	1.340	5
五百匁區	1.715	1.632	0.738	1.395	1.370	4
一貫匁區	1.804	1.770	0.728	1.284	1.397	3
一貫五百匁區	1.863	1.565	0.769	1.140	1.434	1
加納氏ラチウム 鐵一貫匁區	-	-	1.146	0.978	1.062	7
同六百匁區	-	-	1.008	1.302	1.155	6

ラチウムノ効力ヲ認メズ

第一〇 石灰連用試験

石灰連用ガ土壤及物ニ如何ナル影響ヲ來タスヤヲ知ラントス

試験別	七年度	八年度	九年度	平均	順位
無石灰區	石 1.583	石 1.697	石 1.237	石 1.306	4
二十五貫區	1.697	1.113	1.259	1.355	3
五十貫區	1.958	1.005	1.369	1.443	2
百貫區	2.017	1.052	1.040	1.490	1

僅カニ二ケ年ノ試験ナル故石灰ノ害起ラズシテ反ツテ其効ヲ見ル尙
試験ヲ要ス

乙、植木鉢試験 (二万分ノ一)

第一 酸性土壤矯正試験

酸性土壤矯正トシテノ石灰ノ効及量ヲ知ラントス

供試作物 萵苣

試験別	穂數	穂重	稈量
原土其儘區	3	0.5	1.0
中和量ノ二分ノ一石灰加用區	3	3.5	4.6
中和量ノ石灰加用區	5	2.9	4.5

中和量ノ一倍半石灰加用區	6	3.5	5.0
中和量ノ二倍量ノ石灰加用區	6	2.6	5.5
中和量ノ二倍半量ノ石灰加用區	7	2.7	4.5
中和無肥料區	2	0.7	1.2

第二 塩害濃度試験

供試作物 麥

試験別	八年度	九年度	平均	試験別	八年度	九年度	平均
標準區	7.5	5.4	6.5	0.3%區	4.3	3.6	4.0
0.05%區	5.0	6.0	5.5	0.4%區	2.0	1.7	1.9
0.1%區	4.8	5.1	5.0	0.5%區	1.2	1.4	1.3
0.2%區	4.0	4.2	4.1				

第三 塩分被害時期試験

塩害ト麥ノ生長時季トノ關係ヲ知ラントシテ而シテ各區共3%塩化ナ
トリウム溶液ヲ各季ヲ異ニシテ施セリ

試験別	八年	九年	平均	試験別	八年	九年	平均
標準區	3.8	5.4	4.6	穂孕期區	2.3	5.2	4.7
下野直後期區	4.5	4.3	4.4	出穂期區	5.5	4.9	5.2
分蘗期區	4.1	5.1	4.6	乳熟期區	4.4	3.6	4.0
伸長期區	4.4	5.6	5.0		4.8	5.4	5.1

第四 要素試験

四組ノ平均ニシテ供試作物ハ麥

試験別	七年	八年	九年	平均	試験別	七年	八年	九年	平均
完全區	1.5	7.6	6.9	5.3	無石灰區	1.0	5.0	4.1	3.4
無窒素區	0.2	1.6	2.1	1.3	無肥料區	0.2	0.9	0.6	0.6
無燐酸區	1.9	5.8	3.8	3.8	有機質區	2.2	7.5	7.4	5.7
無加里區	1.6	5.8	4.5	4.0					

但シ表ノ數字ハ穂量ヲ示ス

右表ニ依レバ無肥料區ハ完全區ノ八分ノ一、無窒素區ハ五分ノ一、無燐

酸及無加里區ハ六分ノ五ニ相當ス

第五 三要素配合比試験

當地方土壤ニ適スル要素配合比ヲ定メントス

試験別	八年	九年	平均
玄麥二石五斗中分拆比	7.0	7.4	7.2
三要素試験結果比	8.0	9.0	8.5
當場普通肥料比	10.0	8.5	9.3
當地方農家ノ比	5.5	6.3	5.9
窒素多用區	0.5	1.4	1.0
磷酸多用區	10.0	7.8	8.9
磷酸加里多用區	10.0	8.6	9.3

第六 磷酸質肥料肥効率檢定試験

試験別	八年	九年	平均	試験別	八年	九年	平均
過磷酸石灰區	7.0	6.9	7.0	米糠	6.5	7.0	6.8
蒸製骨粉區	6.0	7.6	6.8	無磷酸土	5.8	4.2	5.0

第七 窒素質肥料肥効率檢定試験

試験別	八年	九年	平均	試験別	八年	九年	平均
無窒素區	1.5	2.3	1.9	硫安區	6.0	7.4	6.7
大豆粕區	6.5	7.7	7.1	人糞尿區	5.3	6.0	5.8
鯨粕區	6.5	7.9	7.2	石灰窒素區	4.0	7.2	5.6

丙、委託栽培

第一 酸性土壤改良作

委託者 麻植郡川田村 横田伊三郎

試験別	石數	一升重量	稈量
在來法區	—	—	5.700
普通肥料區	—	—	4.750

酸性肥料區	—	—	3.600
鹽基性肥料區	0.126	309	14.800
普通肥料石灰加用區	0.495	318	17.400
同上石灰多用區	0.638	322	24.500

第二 委託肥料試験

委託者 板野郡里浦村 太田惣五郎
 同 堀江村 古林和平
 同 應神村 玉置義雄
 同 松坂村 田村義雄

試験別	收量	一升重量	稈量	試験別	收量	一升重量	稈量
完全區	2.018	500	56.800	大豆粕區	2.069	366	52.200
無窒素區	1.596	363	34.900	鯨粕區	2.103	367	48.800
無磷酸區	1.429	361	49.200	硫安區	2.029	364	51.300
無加里區	1.743	359	51.400	智利區	2.068	365	52.600
無石灰區	1.778	364	54.700	人糞尿區	2.012	363	49.000
無肥料區	1.194	369	40.200	在來區	2.006	365	47.500

菌虫部

甲、病害

第一 イモチ病豫防試験

本試験ハ専ラ肥料ノ配合ニ注意シテイモチ病豫防上ノ効果ヲ試查セントスルヲ以テ目的トシ大正七年ノ創始ナリ。今其成績ヲ見ルニ石灰ボルドー液撒布區ハ成績最モ良好ニシテ深耕堆肥多用區之ニ次ギ加里多用區石灰加用區モ亦其成績不良ナリトセズ然レ共窒素多用區ノ成績最モ劣レルハ累年成績ノ一致スル所ナリ。

累年成績

種別	試験別	成				績	
		七年度	八年度	九年度	十年度	平均	順位
1	標準肥料區	305	684	512	356	464	5

2	窒素多用區	563	1313	954	472	827	8
3	磷酸加里多用區	288	889	373	417	477	7
4	磷酸多用區	129	939	384	426	466	6
5	加里多用區	129	747	295	335	362	3
6	石灰加用區 (反當30貫加用)	162	925	285	229	401	4
7	深耕堆肥多用區	233	409	170	154	238	2
8	石灰ボルドー液撒布區 (3斗式一回撒布)	12	373	13	118	129	1

備考 成績ハ5坪ニ發生セルクビイモチ病莖數ヲ示スモノトス

第二 蒟蒻腐敗病豫防試験

數種ノ適當ナル殺菌劑ヲ用キテ下種前種薯ヲ消毒シ腐敗病豫防上ノ効果ヲ試験セシ成績次ノ如シ。

種別	試験別	病害歩合	成績順位
1	生石灰汁水1斗一貫々2時間浸シ	0.00	1
2	フォルマリン液2%15分間浸シ	50.00	4
3	標準區	66.66	5
4	硫化加里液1%15分間浸シ	50.00	4
5	昇汞水1.7015分間浸シ	25.00	2
6	石灰硫黄合劑一度渡15分間浸シ	33.00	3
7	硫酸鐵1%15分間浸シ	0.00	1

備考 植木鉢二個チ一區トシ一區六個宛下種セリ

第三 石灰ボルドー液ニ關スル試験

石灰ボルドー液ハ調製後直チニ撒布スレバ有効ナリト稱セラルト雖時日ノ經過ト共ニ幾何ノ効力ヲ減ズルモノナリヤヲ試知セントスルヲ以テ目的トシ神力種ヲ供試品種ヲシテクビイモチ病ニツキ調査セシ成績ハ次ノ如シ。

種別	試験別	成績				平均	順位
		八年度	九年度	十年度	平均		
1	調製當日撒布區	13.50	9.50	9.50	10.83	1	
2	調製后5日目撒布區	20.20	14.71	14.70	16.53	4	
3	同 10日目撒布區		13.54	12.84	13.19	2	
4	同 15日目撒布區		13.50	13.50	13.50	3	

5	標準區	32.81	32.81	5
---	-----	-------	-------	---

即チ以上ノ結果ニヨレバ効力ハ漸次時日ノ經過ト共ニ減少スルヲ示セリ。

第四 春季發芽前ニ於ケル石灰硫黄合劑使用試験

本試験ハ春季發芽前石灰硫黄合劑ヲ灌注シ害虫驅除上ノ効力ヲ査定シ尙更ニ生育上ニ及ボス影響ヲモ知ラントスルニアルヲ目的トシ離核水蜜桃四年生ヲ供試樹トシテ施行セシ成績ハ次ノ如シ。

成績

區別	試験別	供試花芽數	生育可長ノ花芽數	受害ノ花芽數	受害歩合	順位
1	石灰硫黄合劑3度液區	85	76	9	10.91	2
2	同 4度液區	51	6	45	88.22	3
3	同 5度液區	84	3	81	96.43	4
4	標準區	46	0	0	0	1

次ニ桑介殼虫ヲ驅除セシ成績ハ何レモ効果大ニシテ全滅セルヲ見タリ

第五 銅石鹼液ニ關スル試験

本試験ハ銅石鹼ニ關シ病害豫防上ノ効力如何ヲ試査セントシ併セテ石灰ボルドー液トノ効力ヲモ對比セントスルヲ目的トス、今其成績ヲ示セバ次ノ如シ。

區別	試験別	供試莖數	クビイモチニ罹レル莖數	病害歩合	備考
1	銅石鹼液(六匁式)	316	42	13.36	1區-4區ハ權八種ニ於ケル試験
2	石灰ボルドー液(三斗式)	389	21	5.34	
3	銅石鹼液(六匁式)	331	23	6.95	5區-7區ハ早生神力種ニ於ケル試験
4	標準區	308	60	19.99	
5	石灰ボルドー液(三斗式)	267	4	1.86	8區-11區ハ新關取種ニ於ケル試験
6	銅石鹼液(六匁式)	267	7	2.66	
7	同	256	9	3.52	
8	銅石鹼液(六匁式)	200	26	13.00	

9	同	205	42	20.48
10	石灰ホールド一液(三斗式)	163	17	10.43
11	標準	239	44	18.41

區別	試験別	供個數	瘡病ニ罹レ+個數	病害歩合	備考
1	銅石鹼液(六斗式)	763	561	73.52	柑橋温州ニオケル試験
2	石灰ホールド一液(三斗式)	387	319	82.40	

第六 蒟蒻腐敗病豫防試験 (委託試験)

本試験ハ前年來ノ経績ニ係ルト雖本年ハ設計ヲ變更シテ専ラ種薯ノ消毒ニヨリテ腐敗病防除ノ効果ヲ檢知セント試ミタリ、其成績ハ次ノ如シ

區別	試験別	收穫數量		病害數量		病害歩合	
		個數	重量	個數	重量	個數	重量
1	フォルマリン液2%15分間浸シ	72	6.220	26	1.970	36.10	31.67
2	生石灰汁水1斗1貫 夕60分間浸シ	56	4.220	21	1.430	22.30	33.88
3	石灰硫黄合劑0.5度15分間浸シ	79	7.390	41	3.770	51.82	51.01
4	標準	66	4.720	40	2.910	60.60	61.70

第七 甘藷黒病瘵豫防試験 (委託試験)

専ラ土壤ノ消毒ニヨリテ甘藷黒病瘵ヲ豫防セントスル試験ニシテ其成績ハ次ノ如シ。

區別	試験別	收穫個數	病害個數	病害歩合
1	苗床消毒硫黄華區	107	90	84.11%
2	同 石灰區	122	117	95.90
3	同 木灰區	81	73	90.12
4	本畑消毒區黄華區	119	95	79.83
5	同 石灰區	103	78	75.72
6	同 木灰區	87	60	68.96
7	苗床本畑消毒硫黄華區	116	83	71.55
8	同 石灰區	125	103	82.40
9	同 木灰區	135	120	88.88

10	標準區	89	84	94.38
----	-----	----	----	-------

第八 麥斑葉病豫防試験 (委託試験)

麥斑葉病ヲ豫防セント試ミタル次ノ試験別ハ何レモ完全ニ豫防上ノ効果ヲ示セリ。

- 1、温湯浸法
- 2、冷水温湯浸法
- 3、石灰硫黄合劑3度液及ビ5度液ニ1晝夜浸漬セシモノ
- 4、生石灰汁水1斗生石灰1貫夕ニ1晝夜浸漬セシモノ
- 5、硫酸銅0.3%6時間浸0.4%4時間浸、0.5%4時間浸ノモノ
- 6、三斗式石灰ホールド一液1晝夜浸ノモノ但シ木灰汁、水1斗、1貫500 夕區ハ少シク發病ヲ見タリ、尙次年ノ試験ニ俟タントス。(前年ノ成績ニ一致ス)

第九 麥立枯病豫防試験 (委託試験)

専ラ肥料ノ配合ニ注意シ立枯病ヲ豫防セル成績ハ次ノ如シ。

區別	試験別	成			績	
		八年度	九年度	十年度	平均	順位
1	標準區	16.50%	14.20%	6.00%	12.32%	1
2	磷酸加里多用區	3.20	2.80	3.00	3.20	1
3	石灰加用區	9.80	7.40	6.40	7.86	3
4	硫黄華加用區	12.50	14.00	7.00	11.16	4
5	深耕堆肥多用區	6.90	6.00	2.86	5.335	2

以上ノ成績ニヨレバ磷酸加里多用區ハ成績最モ良好ニシテ深耕堆肥多用區之ニ次ギ標準區ハ最モ劣レルヲ知ル。

第一〇 煙草立枯病豫防試験 (委託試験)

本試験ハ數年以來ノ繼續ニシテ煙草作ニ對シ被害大ナル立枯病ヲ豫防センガタメニ専ラ肥料ノ配合ニ注意シ殺菌劑ヲ使用シ並ニ特殊肥料ノ殺菌性ヲ利用シテ土壤ノ消毒ヲ行ヒ立枯病發生ノ多少ヲ檢セントスルヲ以テ目的トシ施行セルモノニシテ試験區數8區ノ中成績最モ良好ナルハ石灰加用區ニ硫化炭素區ニシテ磷酸加里多用區、石灰窒素區ノ

順位ヲ示シ、標準區ハ最モ劣レルヲ見タリ。
成績ハ次ニ示スガ如シ。

區別	試驗別	成			績	
		八年度	九年度	十年度	平均	順位
1	標準區	18.60	12.50	10.60	13.70	8
2	磷酸加里多用區	20.93	3.75	0.00	8.22	3
3	石灰窒素區	11.63	6.25	7.50	8.46	4
4	硫黃華加用區	23.26	6.25	8.75	12.75	6
5	石灰加用區	-	7.50	7.12	7.31	1
6	フオキマリン區	16.27	5.00	8.75	10.00	5
7	二硫化炭素區	11.63	2.50	8.75	7.62	2
8	深耕堆肥多用區	25.81	7.50	7.50	13.60	7

第一一 麥品種ト紅麴病調査

大正十年五月ヨリ六月ニ亘リ極端ナル降雨ノ連日ハ恰モ出穂期ニシ
リ在麥作ニ未曾有ノ紅麴病ヲ誘發セシメタリ、
今當場原種圃ニ於テ調査セシ成績ハ次ノ如シ。

品	種名	調査莖數	被害莖數	病害歩合
養	父 (44號)	1000	663	66.30
珍	好 (85號)	1000	946	94.60
九	州 (46號)	1000	968	96.80
筑	摩	1000	582	58.20
資	滿	2000	228	11.40

乙、害 虫

第一 藍作害虫調査

前年ニ繼續シ本年調査セル事項ヲ示セバ次ノ如シ。

1、藍害虫ト蕊止トノ關係調査

調査着手以來今日ニ至ルマデ蕊止害虫トシテ知ラレタル種類ハ次ニ
示ス7種ニシテ特ニ本年度ニ在リテハ一種ノウヂガ蕊止害虫ノ一ナル
ヲ新タニ加ヘタリ、而シテ該ウヂニ就テハ尙今後ノ調査ニ期セザレバ
詳ナラズト雖一番刈取期ニ於テ刈取莖數ノ33%ハ加害ヲ蒙ルヲ認

メタリ。以テ加害ノ大ナルヤ知ルニ足ルベシ。

蕊止ハ二番作ニ於テ特ニ加害ノ激甚ナルヲ見ルト雖一番作ニ在リテ
モ移植後生育繁茂ト共ニ發現スルモノニシテ7月中旬一番作刈取期ニ
於テハ殆ンド之ガ加害ヲ認ムルモノナリ。

- (I) ヘウタンムシ
- (II) 黒色ヘウタンムシ (假稱)
- (III) 藍ノメイテウ
- (IV) 藍ノウラムシ
- (VI) シブクサムシ (假稱)
- (VII) 一種ノウヂ

2、害虫ノ飼育

本年度ニ於テ飼育セシ種類ハ次ノ如シ。

- 藍ノザウムシ。 藍ノメイテウ。 ヘウタンムシ。
- 藍ノウラムシ。 藍ノミハムシ等

3、藍品種ト害虫加害關係

- (I) 藍品種ト藍螟虫加害關係
- (II) 藍品種ト藍象虫加害關係
- (III) 藍品種トヘウタンムシ加害關係

4、收穫後ノ處理

二番藍又ハ三番藍刈取後刈株ヲ飼育箱内ニ移植シテ害虫類ノ越年狀
況ヲ調査セル所ニヨレバ次ニ示ス種類ヲ得タリ。

- (I) コガネムシ幼虫 (土中)
- (II) 藍螟虫 (藍莖内)
- (III) 一種ノ蛾ノ幼虫 (藍莖内)
- (VI) 一種ノ介殼虫 (藍莖特ニ根際)

5、害虫驅除試験

- (I) 藍象虫驅除試験
 - (イ) 毒劑用量ト害虫驅除關係
 - (ロ) 毒劑用量ト藍作關係
 - (ハ) 各種藥劑ト藍作關係
 - (ニ) 幼虫ト刈取時期關係

(II) 藍螟虫驅除試験

- (イ) 被害莖ノ摘採
- (ロ) 採 卵
- (ハ) 点火誘殺
- (ニ) 捕虫網ノ使用
- (ホ) 驅除劑ノ撒布

(III) 藍螟虫驅除試験

- (イ) 苦棟木汁ノ使用
- (ロ) 各種藥劑ノ使用

第 二 二化螟虫發蛾時期調査

發 生 期	一 化 期	二 化 期
發 蛾 初 期	5 月 中 旬	8 月 中 旬
發 蛾 最 盛 期	6 月 中 下 旬	8 月 下 旬-9 月 上 旬
發 蛾 終 期	7 月 丁 旬	9 月 下 旬

今旬別ニヨリ發蛾狀況ヲ示セバ次ノ如シ

月 別	上 旬	中 旬	下 旬
5 月	0	5	194
6 月	318	953	874
7 月	590	112	35
8 月	0	7	629
9 月	200	41	7

第 三 二化螟虫加害莖發現時期調査

月 日	二化螟虫加害莖	總 虫 數	月 日	二化螟虫加害莖	總 虫 數
7.10	2	3	8.10	34	27
7.15	2	4	8.15	17	14
7.20	11	10	8.20	6	6
7.25	26	19	8.25	0	0
7.31	30	28	8.31	2	10
8. 5	40	27	9. 5	111	1682

9.10	55	756	9.30	10	18
9.15	44	249	10. 5	2	2
9.20	20	39	10.10	0	0
9.25	17	31	10.15	0	0

即チ螟虫加害莖ハ本田ニ在リテハ7月10日ニ現ハレ漸次其數ハ増加シテ8月上旬ニ至リ最高ニ達セリ、而シテ二化期ニ於テハ9月上旬ヨリ中旬ニ亘リ加害莖最モ多ク發現スルヲ以テ二化期加害莖ノ摘採適期ハ實ニ9月上旬ヨリ中旬ノ間ニ在リト云フベシ。

第 四 二化螟虫越冬狀況調査

神力種ヲ用キ10坪(490株)ニ於ケル刈株ト藁トニ越冬スル螟虫ヲ調査セルニ株230-藁314ニシテ株ニ對シ藁ニハ1.37倍ノ螟虫ノ越冬スルヲ見タリ。

第 五 二化螟虫卵寄生蜂調査

卵 採 日	卵 塊 數	總 卵 粒 數	寄 生 蜂 數 (赤卵蜂)	寄 生 歩 合
6. 6	24	1106	167	15.20
6.17	14	1156	1018	88.01
6.20	17	1738	335	19.30
6.26	4	75	30	40.00
6.27	8	225	106	47.11
7. 2	14	188	167	88.82

備考 卵粒數ハ卵塊ヲ苛性加里液ニテ處理セタルモノヲ示シ寄生歩合ハ總卵粒數ニ對スル寄生蜂數ノ比ヲ表ハスモノトス

第 六 二化螟虫二化期ニ於ケル葉鞘變色莖摘採効果ニ關スル調査

調 査 別	採 本 數	摘 採 費	採 採 量	粗 容 量	玄 米 量	格 價	摘 採 効果
1. {被害大ナル箇所ニテ3回變色莖摘採ヲ行フ區	11904	5.35	1.492	0.8597	31.81	—	
2. 標 準 區	—	—	1.505	0.8628	31.99	5.83(利)	

3.	{ 被害中様ナル箇所ニ テ3回變色莖摘採ヲ 行フ區	11286	4.99	1.536	0.8721	32.27	
4.	標準區			1.562	0.8925	33.02	5.74(利)
5.	{ 被害少ナキ箇所ニテ 3回變色莖摘採ヲ行 フ區	8924	4.31	1.546	0.8942	33.09	
6.	標準區			1.140	0.9g17	34.47	5.71(利)

備考 調査面積ハ各區共5畝歩供試品種ハ神力調査總株數ハ7350

第七 稻ノ開花期ニ於ケル葉鞘變色莖摘採影響ニ關スル調査

甲	1. 開花期ヲ中心トシテ5日目毎ニ3回變色莖ヲ摘採セル區	2.0012
	2. 標準區	2.3854
乙	1. 開花期ヲ中心トシテ5日目毎ニ3回稻株間ヲ踏ミ且稻莖ニ動搖ヲ與フル區	1.8821
	2. 標準區	2.3819
丙	1. 乙1區ニ同シ	1.6883
	2. 標準區	1.2888
丁	1. 開花期ヲ中心トシテ5日目毎ニ5回稻株間ヲ踏ミ且稻莖ニ動搖ヲ與フル區	1.0805
	2. 標準區	1.0734
戊	1. 開花期ヲ中心トシテ5日目毎ニ7回稻株間ヲ踏ミ且稻莖ニ動搖ヲ與フル區	1.8246
	2. 標準區	1.9783

備考 供試品種神力收量ハ反當ヲ示ス

園藝部

一、品種ニ對スル試驗

各種品種試驗ノ目的ハ比較の優良ト認メラル、品種並ニ當場ニ於テ採種セル品種ニ就キ生育狀況收量ハ多寡及品質ノ良否市場嗜好等ヲ比較シ以テ本縣ノ風土ニ適スル品種ヲ選抜セントスルト共ニ採種セントスルモノニシテ本年度ニ於テ施行セル試驗ノ成績ヲ擧グレバ次ノ如シ

(イ) 夏 作

第一 茄子品種試驗

耕種梗概二月十八日温床ニ下種シ三月十六日二寸ニ三寸ノ間隔ニ温床内ニ移植ス四月二十九日畦幅二尺五寸株間二尺ニ定植ヲ行フ肥料ハ反當窒素五貫四百匁磷酸五貫二百匁加里六貫ヲ施用シ其中追肥トシテ五月五日(1)五月十六日(2)五月二十六日(3)六月二十六日(4)ノ四回ニ施用ス中耕除草ハ五月十六日(1)五月二十六日(2)六月二十五日(3)ノ三回ニ行ヒタリ

品 種 名	大 正 八 年	大 正 九 年	大 正 十 年	平 均
中生山茄子	1,145,260	—	1,078,000	1,111,630
晚生山茄子	1,091,970	814,350	903,560	936,627
眞 黒	—	545,700	787,880	666,790
眞 黒 (當場種)	—	—	848,680	848,680
眞 黒 (二)	—	—	848,680	848,680
梶 木	—	—	663,600	663,600
橋 田	—	—	1,178,880	1,178,880
芹 川	—	—	1,022,810	1,022,810
大 歳 (二)	—	—	1,212,400	1,212,400
大 歳 (三)	—	—	967,740	967,740
大 歳 (四)	—	—	1,089,200	1,089,200
大 歳 (五)	—	—	1,108,940	1,108,940
古 河 (一)	—	—	1,102,220	1,102,220
古 河 (四)	—	—	1,238,200	1,238,200
古 河 (六)	—	—	1,353,380	1,353,380

備考 右成績表中番號ヲ附スルモノハ當場ニ於テ採種セルモノナリ

第二 胡瓜品種試驗

耕種梗概二月二十六日催芽箱ニ播種シ發芽セルヲ見テ温床ニ一本宛移植セルモノニシテ子葉甲拆ノ時(1)本葉二三枚ノ時(2)二回ノ移植ヲ行フ四月廿七日畦幅四尺ニ株間一尺五寸二條ニ定植セリ肥料ハ反當窒素四貫九百匁磷酸四貫四百匁加里五貫匁ヲ施用シ其中追肥ハ四月二十八日(1)五月五日(2)五月十六日(3)五月三十一日(4)六月二十三日(5)ノ五回ニ分施セリ中耕除草ハ五月八日(1)五月二十七日(2)二行支柱立

ハ五月二十七日ニ行ヒ三斗式石灰ボルドー液ヲ五月二十二日(1)五月二十四日(2)五月二十七日(3)六月七日(4)六月二十日(5)ノ五回撒布シ八月三十一日蔓上ゲヲナセリ

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	平 均
刈 羽	556.290	—	288.000	422.145
早 生 節 成	259.740	1.083.240	427.140	590.040
白 節 成	579.600	1.096.480	579.600	1.029.266
馬 込 半 白	—	1.009.620	165.600	587.610
馬込半白(一)	—	—	577.000	577.000
馬込半白(二)	—	—	234.000	234.000
馬込半白(黄)	—	—	270.000	270.000
落 合 節 成	—	1.908.000	456.840	1.182.420
葛 節	—	962.620	243.900	603.260
毛 馬	—	—	270.000	270.000

右成績表中番號ノアルモノハ當場ニ於テ採種セルモノヲ比較ス本年ハ例年ニナキ極メテ早ク露菌病發生シタルヲ以テ一般當業者ハ殆ド收穫皆無ノ狀況ナリシ爲メ藥液撒布シタルモ其効少ナク遺憾ナガラ豫期ノ成績ヲ得ルニ至ラズ

第三 南瓜品種試験

耕種梗概三月十八日苗床ニ播種シ子葉甲拆ノ時(1)本葉三枚ヲ生セシ時(2)移植ヲ行四月二十九日畦幅六尺株間四尺ニ定植ス肥料ハ反當窒素二貫八百匁磷酸三貫五百匁加里三貫六百匁ヲ施シ其中追肥トシテ五月二日(1)五月廿日(2)六月參日(3)ノ三回ニ分施ス中耕除草ハ五月三十日及六月參日ニ行ヒ麥稈ヲ敷ケリ

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	平 均	備 考
赤 皮	—	—	1.103.350	1.103.350	番號ヲ附スルモノハ當場ニ於テ採種セルモノナリ
早 生 黒 皮	—	—	586.350	586.350	
鹿 ケ 谷	—	—	608.935	608.935	
西 京	417.600	877.200	680.175	658.425	
早 生 小 南 瓜	355.200	726.000	803.940	628.380	
備 前	—	1.052.000	1.072.800	1.062.400	

備 前 甲 三	—	—	868.800	868.800
備 前 乙 三	—	—	674.880	674.880
備 前 甲 一 七	—	—	648.600	648.600

第四 西瓜品種試験

耕種梗概四月十九日本畑ニ播種シ五月十一日(1)六月三日(2)ノ二回中耕五月二十九日(1)六月二十一日(2)ノ二回ニ除草ヲナシ六月三日麥稈敷ヲナス肥料ハ反當窒素五貫二百匁磷酸五貫三百匁加里五貫四百匁施ス其中追肥トシテ五月五日(1)五月二十一日(2)五月二十六日(3)七月六日(4)ノ四回ニ分施ス間引ハ發芽後二週間以内ニ一回本葉五六枚ヲ生シタル時ニ於テ強健ナルモノ一本トス

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	平 均
アイスクリーム	224.400	—	388.100	306.250
市 岡	—	—	243.800	243.800
マウンテン スイート	356.250	—	406.500	381.375

備考 當場ノ圃場ハ西瓜ノ土質ニ適セズ且ツ守蠅ノ食害ヲ受ケ豫定ノ生育又收穫ヲ見ルコト得サルハ遺憾トス

第五 菜豆品種試験

耕種梗概四月八日畦幅四尺株間一尺二寸(一株四粒宛)ニ播種ス肥料ハ反當窒素1貫900匁磷酸2貫800匁加里3貫000匁ヲ施ス追肥トシテ五月二十九日(1)六月四日(2)七月一日(3)ノ三回ニ分施シ五月十七日中耕及除草ヲナシ五月二十五日枝柱立ヲ行フ

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年 平 均	採收月日
ケンダツキウオンダー	209.600	—	312.000	260.800	月日 6.20始 7.16終
バウンチャーフル	335.700	274.320	298.000	302.670	6.20 7.16
コンコールド	241.300	231.840	218.800	230.610	6.20 7.16
太 福	—	—	248.400	248.400	6.20 7.16
餅 莢 鈴 成	296.000	43.380	284.600	207.990	6.13 7.16

白	八	ツ	房	319.000	—	251.700	285.350	6.15 7.18
黄			金	—	320.420	213.000	266.710	6.12 7.18
テ	ン	ネ	—	—	223.200	209.000	216.100	6.15 7.18
バ	レ	ン	ダ	—	298.800	215.000	255.100	6.12 7.18
鶉			丸	257.400	241.760	223.000	240.650	6.12 7.18
ケン	ダ	ツ	キ	—	—	324.000	324.000	6.15 7.18
			ウ	—	—	—	—	6.15 7.18
			オン	—	—	—	—	6.15 7.18
			ダ	—	—	—	—	6.15 7.18
			(當	—	—	—	—	6.15 7.18
			場	—	—	—	—	6.15 7.18
			産)	—	—	—	—	6.15 7.18
			コン	—	—	168.900	168.900	6.15 7.18
			コー	—	—	—	—	6.15 7.18
			ルド	—	—	—	—	6.15 7.18
			(當	—	—	—	—	6.15 7.18
			産物)	—	—	—	—	6.15 7.18

第六 胡蘿蔔品種試験

耕種梗概八月八日二尺畦ニ二條開播種ス肥料ハ反當窒素參貫六百匁
 磷酸三貫四百匁加里三貫三百匁ヲ分施ス補肥施用期ハ八月十五日(1)
 九月九日(2)九月十八日(3)九月二十五日(4)ノ四回分施ス中耕九月六
 日(1)九月二十九日(2)ノ二回ニ除草ハ八月二十四日(1)八月三十一日
 (2)九月二十四日(3)ノ三回ニ行ヒ間引ハ九月九日(1)九月二十日(2)ノ
 二回ニナス收穫期十二月二十日

品	種	名	大正九年	大正十年	二ヶ年平均
東	京	大	1.330.000	832.500	1.081.400
札	幌	大	1.530.000	1.156.500	1.343.250
金		時	517.500	785.520	651.520
中		原	1.496.360	990.000	1.242.270

右成績中中原及金時種ハ市場ニ於ケル販賣容易ナリ

第七 牛蒡品種試験

耕種梗概四月十九日貳尺畦ニ二條播トシテ間引ヲ行ヒ最後ニ四寸内
 外ノ株間トス肥料ハ反當窒素四貫百匁磷酸參貫二百匁加里三貫九百匁
 ヲ施ス補肥施用期ハ五月五日(1)五月十一日(2)五月二十一日(3)七月
 六日(4)ノ四回ニ分施ス中耕ハ四月二十六日(1)五月二十日(2)ノ二回
 ニナス除草ハ五月二日ニセリ間引ハ五月二日(1)五月二十六日(2)ノ二
 回ニナス收穫期ハ十二月二十八日ニ行ヒタリ

品	種	名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均
梅		田	516.000	900.000	450.000	622.000
大		浦	569.400	660.000	367.200	532.200
瀧		ノ	—	—	408.000	408.000
砂		川	623.460	540.000	391.800	518.420
大	和	初	—	1.440.000	315.000	877.500
		瀬	—	—	—	—

第八 甘藷品種試験

耕種梗概苗床ノ作り方ハ赤澤式ニ準シタルモノニシテ四月廿七日苗
 床ニ諸伏ヲ行ヒタリ苗床ニ於テ蔓ノ八九寸ニ伸長セル時ニ於テ良好ナ
 ル蔓ヲ晴天ノ日ニ間引キヲナシ六月二十七日挿苗ヲセリ(本年度圃場
 及作業ノ都合ニヨリ大ニ時期ヲ遅延セリ)畦幅二尺株間一尺五寸トシ
 挿苗法ハ船低挿トナシ蔓ノ先端一二寸ヲ地上ニ表シ直立セシムルモノ
 トス肥料ハ挿苗期遅キ爲メ無肥料ヲ以テ栽培セリ

品	種	名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均	取寄先
白		諸	—	—	318.000	318.000	美馬郡
尼		ヶ	394.800	96.400	258.600	249.933	板野郡
ア	イ	ノ	516.000	295.200	302.900	371.362	板野郡
ア	イ	ノ	—	—	1.296.000	1.296.000	那賀郡
ア	イ	ノ	—	—	290.400	290.400	名東郡
櫻		諸	—	—	272.700	272.700	那賀郡
九		州	—	—	360.000	360.000	三好郡
九		州	—	—	290.400	290.400	美馬郡
天		竺	770.840	370.800	468.000	536.546	名東郡
島		諸	—	—	315.000	315.000	三好郡
四	十	日	—	—	355.680	355.680	阿波郡

第九 春播葱品種試験

耕種梗概苗床ハ南北四尺長サ適宜ノ地ヲ劃シ床内ニハ篩土ト砂ト調
 和シタルモノヲ三寸許リ盛り尙之ニ腐熟セル堆肥五貫過磷酸石炙藁
 灰各百匁宛ヲ一坪ニ撒布シ能ク土ト混ジ更ニ人糞尿ヲ二貫施シ數日間
 放置シ播種スルニ至リ培表土ヲ均シ之ニ撒播ヲナシ薄ク覆土シ發芽ス

ル迄藁ヲ覆ヒ乾燥ヲ妨グ苗床ニ三月十九日播種シ七月十八日本圃ニ二尺五寸畦幅ニ地表ヨリ八寸内外ノ深サニ約一尺幅ニ堀リ下ゲ元肥ヲ施シ一週間後ニ一株二本宛四寸株間ニ定植セリ、肥料・反當窒素四貫九百匁磷酸一貫六百匁加里四貫三百匁ヲ施ス補肥トシテハ七月二十五日(1)八月三日(2)九月二十日(3)十月三日(4)ノ四回ニ分施ス軟白ハ八月三日(1)八月二十六日(2)九月二十日(3)十月三日(4)ノ四回ニ亘リ落葉及藁ヲ以テ行ヒタリ中耕除草ハ軟化ノ際隨時之ヲ行フ採收月日ハ十二月二十二日一回ニ採收セリ

品 種 名	大 正 九 年	大 正 十 年	三ヶ年 平均
改 良 一 本	864.000	1,204.000	1,034.000
東 京 一 本	1,080.000	938.000	1,009.000
水 戸 薄 赤	—	1,057.000	1,057.000
大 阪 改 良 一 本	—	868.000	868.000
千 住	1,485.000	406.000	945.500
百 目	362.000	455.000	409.000
越 津	382.500	140.000	261.250

(ロ) 冬 作

第一〇 漬菜品種試験

甲、結球白菜

耕種梗概八月二十六日ニ畦幅二尺種子反當五合ノ割合ヲ以テ播種シ間引ヲ行ヒテ最後ニ株間ヲ一尺五寸トス肥料ハ反當窒素六貫五百匁磷酸三貫二百匁加里四貫六百匁トシ其中追肥ハ九月九日(1)九月十八日(2)九月二十六日(3)十月五日(4)ノ四回ニ分施ス間引ハ追肥ト相前後シテ四回行フ中耕除草ハ九月九日(1)十月四日(2)十月七日(3)十一月一日(4)ノ四回ニナセリ害虫驅除トシテハ除虫菊石鹼合劑ヲ九月十四日(1)十月三日(2)十月十五日(3)ノ三回ニ撒布セリ十一月二十三日各株ヲ結束シ十二月二十三日ヨリ收穫ニ着手セリ

品 種 名	大 正 八 年	大 正 九 年	大 正 十 年	三ヶ年 平均
結 球 山 東 白 菜	1,062.000	448.740	954.000	838.710

芝 罘 白 菜	1,062.000	965.700	1,188.000	1,071.900
包 頭 蓮 白 菜	—	1,048.680	1,153.000	1,100.840
包 心 白 菜	—	—	1,584.000	1,584.000
金 州 白 菜	—	863.550	1,605.000	1,234.275
野 崎 白 菜 一 號	—	—	1,566.000	1,566.000
野 崎 白 菜 二 號	—	—	1,485.000	1,485.000
茨 城 白 菜	—	1,006.200	242.000	1,574.100

乙、普通白菜

耕種梗概畦幅二尺ノモノニ反當六合ノ種子ヲ九月十一日播種シ間引ヲナシテ最後八九寸ノ株間トナス肥料ハ反當窒素五貫二百匁磷酸三貫百匁加里四貫百匁ヲ施用シ其中補肥トシテ九月二十八日(1)十月五日(2)十月二十日(3)十一月三日(4)ノ四回ニ分施ス間引ハ十月十五日(1)十一月十八日(2)ノ二回ニ行ヘリ中耕及除草ハ補肥ノ前後ニナセリ害虫驅除トシテハ十月十五日(1)十月二十日(2)ノ二回ニ除虫菊加用石鹼合劑ヲ撒布セリ

品 種 名	大 正 八 年	大 正 九 年	大 正 十 年	三ヶ年 平均	
朝 鮮 白 菜	792.000	455.400	732.000	659.800	十二月十八日採收
直 隸 白 菜	1,062.000	1,230.300	1,222.000	1,334.766	
山 東 白 菜	1,368.000	—	996.000	1,182.000	
開 城 白 菜	1,143.000	603.000	1,180.000	975.333	

第十一 蕪菁品種試験

耕種梗概二尺四寸ノ畦上ニ二條ノ淺溝ヲ設ケ稀薄ナル人糞尿ヲ施シ九月十一日反當種子五合ノ割合ヲ以テ播種シ淺ク覆土ス發芽後適宜間引ヲナシ最後ニ五寸ノ株間トナス肥料ハ反當窒素三貫九百匁磷酸二貫百匁加里三貫二百匁ヲ施用シ其中追肥トシテハ九月二十六日(1)十月二日(2)十月十一日(3)ノ三回ニ分施ス間引ハ補肥前毎ニ三回行ヒタリ中耕及除草ハ十月十日(1)十月二十日(2)ノ二回行ヒ害虫驅除トシテ十月十一日(1)十月二十二日(2)ノ二回ニ除虫菊石鹼合劑ヲ撒布セリ

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均
聖護院丸白	1,144,000	1,617,000	879,200	1,213,400
	—	—	709,200	709,200

以上二品種ハ葉及根共ニ品質、收量、良好ニシテ本縣ニ最モ適スル良品種ナリ殊ニ丸白種ハ本縣特有ノ蕪菁ニシテ市場ニ於テ最モ歡迎セラル

第十二 甘藍品種試験

耕種梗概東西適宜幅四尺ノ地ヲ區劃シテ床内ニ腐熟セル堆肥二貫匁葉百匁油粕五十匁ヲ撒布シ能ク土ト混ジ更ニ人尿ヲ一貫匁施シ數日間放置、土塊ヲ充分ニ粉碎シ九月二十六日條播シ子葉充分展開セル時ニ第一回移植ヲ行ヒ本葉三四枚ヲ生シタル時五寸平方ニ第二回ノ移植ヲナシ一月中旬早生種ハ畦幅二尺株間二尺晚生種畦幅二尺五寸株間二尺五寸ニ定植セリ肥料ハ反當窒素四貫五百匁磷酸四貫二百匁加里五貫ヲ施用シ其中追肥トシテハ二月二日(1)二月二十一日(2)三月十二日(3)三月廿七日(4)四月十二日(5)ノ五回ニ施ス中耕及除草ハ追肥ノ施用前後ニ行ヒ葉節ノ徒ニ伸ビントスルモノハ斷根ス

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均	採收月日
中野早生	586,800	741,600	930,900	753,100	5.15 7.4
中野早春	—	—	977,400	977,400	5.15 6.25
野崎早生	—	—	870,300	870,300	5.15 7.4
中野早丸	—	—	1,651,400	1,651,400	5.15 6.25
オールベツトアーリー	—	1,161,900	2,042,100	1,697,970	5.29 7.4
アーリーマーケット	—	—	1,306,800	1,306,800	6.1 6.25
粟賀改良早生	—	—	572,400	572,400	5.15 7.4
サクセツション	—	—	1,148,850	1,148,850	6.7 6.25
サクセツション	—	—	1,261,400	1,261,400	6.16 7.6
サクセツション二號	—	—	901,800	901,800	6.16 7.6
同 三號	—	—	1,125,900	1,125,900	6.16 7.6
同 四號	—	—	1,123,000	1,123,000	6.16 7.6

番號ヲ附スルモノハ當場ニ於テ採種セルモノナリ

第十三 秋播葱品種試験

耕種梗概苗床ハ春播ニ準ズ九月二十九日苗床ニ播種シ翌年三月十七日畦幅二尺五寸ニ劃シ地表ヨリ八寸深サニ掘リ下ゲ其中央四寸間隔ニ二本ヲ一株トシテ定植セリ肥料反當窒素四貫三百匁磷酸二貫百匁加里四貫匁ヲ施用ス追肥ハ四月十六日(1)四月廿五日(2)五月四日(3)六月二十日(4)七月五日(5)ノ五回ニ分施セリ軟化期五月二十日(1)六月二十日(2)七月二十五日(3)九月十日(4)十月二十五日(5)ノ五回ニ初期ハ落葉ヲ使用シ後ハ麥稈ヲ用フ除草六月十日(1)七月十六日(2)八月二十三日(3)ノ三回ニ行ヒタリ

品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均	收穫月日
東京一本	—	—	1,135,000	1,135,000	翌年三月十二日
相 穀	—	490,000	1,187,000	838,500	同
改良一本	—	658,000	1,096,000	877,000	同
百目	—	770,000	911,000	840,500	同
千住	—	—	1,171,000	1,171,000	同
金澤太	—	—	1,070,000	1,070,000	同

第十四 葱頭品種試験

耕種梗概ハ九月二十五日苗床ニ播種シ十二月二十七日日本圃ニ畦幅二尺株間五寸ノ二條千鳥ニ定植セリ苗床ノ肥料トシテハ一坪當堆肥一貫匁木灰百匁人尿一貫匁ヲ施シ本圃ニハ反當窒素五貫百匁磷酸三貫三百匁加里五貫二百匁ヲ施用シ追肥及中耕ハ一月廿日(1)二月廿日(2)三月十日(3)四月一日(4)四回ニ三月一日(1)四月一日(2)五月五日(3)ノ三回ニ除草ヲ行ヒタリ

品 種 名	大 正 十 年	採 收 月 日
甲 高 種	918,800	6.13
山 高 種	1,504,100	
ホワイトグローブ	577,800	
レツトウヘサー	653,400	
スウイーキヒールド	405,000	
赤 玉 葱	905,200	
クローブダンパース	484,200	
エロースキン		

二、栽培法其他ニ關スル試験

第一 菜菔肥料試験

各種ノ肥料施用シ菜菔ノ收量品質並ニ生育状況ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ供試品種ハ宮重種ヲ用ヒ反當肥料ノ成分ハ窒素三貫五百匁磷酸二貫五百匁加里二貫五百匁ヲ施用セリ肥料名ハ下ノ如シ

肥料名	第一區	第二區	第三區	第四區
堆肥	—	200	200	200
大豆粕	—	—	13	—
鯨粕	20	—	—	—
人尿	300	450	150	200
智利硝石	—	—	—	9
米糠	—	—	40	—
過磷酸石灰	8	9	—	11
木灰	20	—	3	8

追肥トシテ九月二十六日(1)十月二日(2)十月十五日(3)十一月十六日(4)ノ四回ニ行ヒ間引ハ九月廿日(1)九月卅日(2)ノ二回ニナシ中耕除草九月十八日(1)十月二日(2)十月廿日(3)ノ三回ニ行ヒタリ害虫驅除トシテ除虫菊加用石鹼水ヲ九月十九日(1)十月三日(2)ノ二回ニ撒布收リ收穫期ハ十二月二十九日ニ全部採セセリ

區	名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均
第一區		1,480,000	2,363,000	1,867,200	2,023,400
第二區		1,640,000	2,288,340	1,974,600	1,967,647
第三區		1,516,000	1,949,940	2,048,400	1,371,447
第四區		1,240,000	2,349,940	1,749,200	1,779,713

第二 白菜肥料試験

各種ノ肥料ヲ施シ生育收量品質收穫期ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ供試品種ハ包頭蓮白菜結球山東白菜野崎白菜包心白菜ノ四種ヲ用ヒ反當肥料ノ成分ハ窒素五貫百匁磷酸二貫七百匁加里

三貫六百匁ヲ施用セリ肥料名下ノ如シ耕種梗概ハ品種試験ニ準スルヲ以テ省略セリ

肥料名	第一區	第二區	第三區	第四區
堆肥	300	300	300	300
油粕	—	17	—	30
鯨粕	—	—	—	—
大豆粕	—	—	20	—
米糠	20	—	—	—
鷄糞	29	—	—	—
過磷酸石灰	—	4	8	5
木灰	—	7	48	3,750
人尿	400	400	400	400

追肥トシテ九月二十六日(1)十月五日(2)十月十五日(3)十一月三日(4)ノ四回ニ分施ス間引ハ九月十四日(1)九月三十日(2)ノ二回ニナセリ中耕除草ハ九月二十八日(1)十月十日(2)十一月一日(3)ノ三回ニ行フ收穫期ハ十二月九日ヨリ十二月二十日ニ至期間ニ行ヒタリ

區	名	品 種 名	人 正 十 年
第一區	}	包頭蓮白菜	1,696,500
		結球山東白菜	773,000
		包心白菜	618,000
		野崎白菜	1,017,000
第二區	}	包頭蓮白菜	1,050,000
		結球山東白菜	1,230,000
		包心白菜	780,000
		野崎白菜	1,006,000
第三區	}	包頭蓮白菜	1,185,000
		結球山東白菜	714,000
		包心白菜	873,000
		野崎白菜	982,000
第四區	}	包頭蓮白菜	1,194,000
		結球山東白菜	762,000
		包心白菜	1,027,000
		野崎白菜	1,005,000

第三 結球白菜播種期試験

播種期ヲ異ニセバ其生ル收量品質病虫害ノ上ニ如何ナル影響ヲ及スヤヲ知ルト共ニ播種ノ適否ヲ知ラントスル爲メニシテ耕種梗概ハ品種ヲ驗ニ準ズルヲ以テ省畧ス

試験別 第一區八月二十日播第二區八月二十五日播第三區八月三十日播第四區九月六日播供試品種結球山東白菜包頭蓮白菜芝罘白菜中耕除草ハ各區共ニ三回行ヒタリ間引ハ二回、補肥ハ四回各區共ニ生育ニ應シ行ヒ十二月七日ヨリ十二月二十五日迄ニ收穫ヲナセリ

區名	品 種 名	大 正 十 年
第 一 區	結 球 山 東 白 菜	864.000
	包 頭 蓮 白 菜	1.123.200
	芝 罘 白 菜	1.152.000
第 二 區	結 球 山 東 白 菜	984.600
	包 頭 蓮 白 菜	1.092.000
	芝 罘 白 菜	1.006.000
第 三 區	結 球 山 東 白 菜	660.000
	包 頭 蓮 白 菜	1.260.000
	芝 罘 白 菜	1.506.600
第 四 區	結 球 山 東 白 菜	777.000
	包 頭 蓮 白 菜	862.000
	芝 罘 白 菜	806.000

第四 甘藍石灰加用試験

甘藍ヲ栽培スルニ石灰ヲ加用スル時ハ成育ノ狀況收量ノ多少其地ノ性質ニ就キ如何ナル影響ヲ及ホスモノナルヤヲ知り且ツ其適量ヲ知ラントス

供試品種ハサクセツション及ビ中野早生ノ二種ヲ用ヒタルモノニシテ耕種ノ方法ハ品種試験ニ準ズ

區 名	品 種 名	大正八年	大正九年	大正十年	三ヶ年平均	採收月日
無 加 用 區	サクセツション	437.400	211.500	825.400	491.423	6.13
	中野早生	—	849.850	766.600	808.225	5.29

二十貫加用區	サクセツション	1.170.900	540.000	920.000	876.967	6.25
	中野早生	—	540.000	1.084.500	812.250	7.10
二十五貫加用區	サクセツション	1.517.400	513.000	1.078.400	1.036.267	5.15
	中野早生	—	741.600	910.800	826.200	6.25
三十貫加用區	サクセツション	1.029.600	394.200	964.400	796.067	6.25
	中野早生	—	326.250	730.060	528.155	6.30
四十貫加用區	サクセツション	—	342.000	957.600	649.800	5.15
	中野早生	—	615.600	895.500	755.550	6.9

第五 葱頭苗大小比較試験

苗ノ大小ガ生育收量ニ如何ナル影響ヲ及ボスモノナルヤヲ知ラントスルモノニシテ耕種ノ方法ハ品種試験ト同様ナリ

品 種 名	苗ノ大中小別	大正九年	大正十年	三ヶ年平均	採收月日
甲 高 種	太 苗	—	928.800	928.800	6.13
	中 苗	—	918.800	918.800	
	小 苗	—	939.200	939.200	
山 高 種	太 苗	—	688.000	688.000	
	中 苗	—	1.504.100	1.504.100	
	小 苗	—	1.069.200	1.069.200	
ホワイトグローブ	太 苗	—	529.900	529.900	
	中 苗	—	577.800	577.800	
	小 苗	—	622.000	622.000	
レットウヘザーズウイーキヒールト	太 苗	—	649.800	649.800	
	中 苗	—	653.400	653.400	
	小 苗	—	624.600	624.600	
赤 玉 葱	太 苗	—	397.800	397.800	
	中 苗	—	405.000	405.000	
	小 苗	—	439.200	439.200	
ケローブダンバース	太 苗	373.200	993.240	683.220	
	中 苗	—	905.200	905.200	
	小 苗	502.050	861.440	681.745	
エロースキン	太 苗	—	1.069.000	1.069.000	
	中 苗	—	484.200	484.200	
	小 苗	—	305.600	305.600	

右ノ表中太苗ノモノハ花蕾ノ抽出多ク小苗ハ花蕾ノ抽出少ナキモ球ハ一般ニ小形ナルヲ以テ中苗即極端ナラザル苗ヲ定植スル事必要ナリ

三、採種其他ニ關スル試験

優良品種中固有ノ特性ヲ具備セル母本ヲ撰擇シ之ガ採種ノ位置ニヨリ主産地ノ種子ト比較栽培シ生育品質形状收量ニ如何ナル影響ヲ及スモノナルヤヲ知ラントスルニアリ之ガ採種セルモノハ次ノ如シ

第一 茄子交配種比較試験

優良ト認ムル品種或ハ耐病性ノ品種及色澤形状ノ良否ニ就キ交配ヲ行ヒ一代雜種ヲ作り之ガ生育形状品質收量ニ如何ナル影響ヲ及スモノナルヤヲ知ランガ爲メ左記品種ヲ交配採種セリ

耕種梗概品種試験ニ準スルヲ以テ省略ス

真黒×橋田	橋田×蔓細千成	橋田×古河
橋田×真黒	東京中生山×古河	東京中生山×真黒
苜川×東京晩生山	東京中生山×大歳	古河×東京晩生山
東京中生山×古河	苜川×古河	苜川×真黒
大歳×東京中生山	大歳×支那白	大歳×古河
大歳×苜川	古河×真黒	古河×東京中生山
古河×橋田	古河×大歳	

第二 胡蘿蔔採種試験

採種品種 1、中原胡蘿蔔 2、金時胡蘿蔔

耕種梗概十二月十五日品種試験中ヨリ良型ヲ撰拔シ畦幅二尺五寸株間二尺ノ間隔ニ定植セリ肥料ハ反當窒素二貫六百匁磷酸二貫加里三貫五百五十匁ヲ施用ス其中一月廿六日(1)五月八日(2)ノ二回ニ分施セリ中耕除草ハ三月八日(1)五月八日(2)六月十日(3)(除草)ノ三回行ヒタリ收穫期ハ七月二十三日ニ刈取ヲナセリ採種量左ノ如シ

品 種 名	主幹ノ收量	枝ノ收量	其 他	計	坪 數
中 原	升 .500	升 1.300	升 1.800	3,600	十五坪
金 時	.500	2,000	2,000	4,500	十五坪

第三 牛蒡採種試験

採種品種 1、大和初瀬 2、砂川

耕種梗概 十二月二十七日畦幅二尺五寸株間二尺ノ距離ニ定植シ肥料ハ反當窒素三貫五百匁磷酸二貫加里三貫五百匁ヲ施ス其中補肥トシテ二月五日(1)五月七日(2)ノ二回ニ分施シ中耕除草ハ四月二日(1)五月二十日(2)六月十七日(3)(除草)ヲ三回行ヒ五月十五日支柱ヲ立テ七月十二日採種セリ採種量左ノ如シ

品 種 名	主 幹 採 種 量	枝 採 種 量	其 他	坪 數	備 考
大 和 初 瀬	升 0.3	升 0.5	升 1.200	十 坪	生育中暴風雨ノ爲メ豫定ノ生育及採種スル事ヲ得サリキ
砂 川	. 0.2	0.4	0.900	十 坪	

第四 大根採種試験

採種品種 1、宮 重

耕種梗概 十二月十七日畦幅二尺五寸株間二尺ノ距離ニ定植シ肥料ハ反當窒素二貫六百匁磷酸二貫加里三貫五百匁ヲ施ス其中補肥一月二十日(1)三月六日(2)ノ二回ニ分施シ中耕除草ハ三月二十七日(1)四月二十九日(2)ノ三回行ヒ五月五日支柱ヲ立テ六月五日採種セリ採種量左ノ如シ

品 種 名	面 積	收 量		計
		上 種	層	
宮 重	十 五 坪	升 3,000	升 2,000	升 5,000

第五 蕪菁採種試験

採種品種 聖護院 在來種

耕種梗概 畦幅二尺株間二尺ノ距離ニ十二月十八日定植ス肥料ハ反當窒素二貫五百匁磷酸一貫九百匁加里二貫九百匁ヲ施ス補肥トシテハ一月二十五日(1)二月十二日(2)ノ二回ニ分施ス除草及中耕ハ三月十日ノ一回ニシテ五月二十日採收セリ採種量左ノ如シ

品 種 名	採種面積	上 種	層	計
聖 護 院	十 坪	升 1,000	升 .500	升 1,500
在 來 (白丸)	十 坪	.800	.500	1,300

第六 頭葱採種試験

採種品種 黄葱頭

耕種梗概 十月十三日畦幅二尺五寸株間二尺ノ距離ニ定植セリ肥料ハ反當窒素三貫匁磷酸二貫加里三貫五百匁ヲ施用ス一月十八日(1)二月廿日(2)四月五日ノ三回ニ分施ス五月五日支柱ヲ立テ六月廿七日採收セリ採種量左ノ如シ

品 種 名	面 積	採 種 量	
黄 葱 頭	十 五 坪	1.500	葉色分蘖ノ状況草丈開花ノ早晚花色ヲ調査シ開花ニ前シニ採種ヲナシ三十餘ヲ採種シ得タリ

四、委 托 試 験

第一 大根採種試験

宮重種ノ優良種子ヲ愛知縣ヨリ購入栽培シ其中ヨリ優良型ヲ撰抜採種シ之ヲ生育状況収量ノ多寡品質ノ良否等ヲ比較研究セントス

委託者 名東郡北井上村 清原清七
板野郡里浦村 太田惣五郎

耕種梗概

項 目	清 原 清 七	太 田 惣 五 郎
畦 幅	二 尺 五 寸	二 尺 五 寸
株 間	二 尺	二 尺
定 植	十 二 月 十 五 日	十 二 月 十 四 日
肥 料	窒 素	2.600
	磷 酸	1.860
	加 里	3.550
補 肥	第 一 回	二 月 十 三 日
	第 二 回	三 月 廿 七 日
除 草	第 一 回	五 月 六 日
	第 二 回	四 月 十 日
	第 三 回	六 月 十 二 日
採 種 量		

採種量

採種氏名	採種面積	種 子 量		計	
		上 種	層 種		
名東郡北井上村 清原清七	一 畝	8.000	2.000	10.000	成熟期ニ至リ砂地ノ爲メ 乾燥ニ失シ充實極メテ不 良トナル
板野郡里浦村 太田惣五郎	一 畝	5.000	3.000	8.000	

第二 蕪菁採種試験

加茂村特有ノ蕪菁ヲ栽培シ其中ヨリ優良型ヲ撰抜採種シ生育状況収量ノ多寡市場ノ嗜好品質ノ良否ヲ知ラントスルニアリ

委託者 名東郡加茂村 新居利平

耕種梗概 畦幅二尺株間一尺五寸ノ距離ニ一月十四日定植セリ肥料ハ窒素二貫五百匁磷酸二貫加里二貫五百匁ヲ施ス其中補肥トシテ一月十五日(1)二月廿五日(2)ノ二回ニ分施セリ摘心ハ各株共ニ四五寸ニ花軸抽出ノ時ニナシ五月五日刈取收穫セリ

採種面積	採 種 量			配 付 數 量
	上 種	層 種	計	
二 〇 坪	2.50	.50	3.000	各郡農會へ配付セリ

五、果 樹

種 別	品 種 名	面 積	設 置 場 所	氏 名
柑 橘	温 州	三 畝	勝浦郡御野村坂本	井上武一
枇 杷	茂 木	五 畝	板野郡大山村	中川虎之助
柿	富 富	一 反	海部郡赤河内村	青年團
柿	富 富	三 畝	三好郡三名村	藤川義弘

六、種 卵 配 付

品 種 名	配付數量
ミノルカ	一〇七個
白色レグホーン	一二〇
白色ブリモースロツク	四九
名古屋コーチン	四
計	二八〇

庶務部

第一 出張ニ關スル事項

講習講話	59件
實地指導	58件
調査	105件
審査	37件
打合其他	76件
計	335件

第二 質問應答件數

質問應答	202件
------	------

第三 參觀人員

本年度ニ於ケル參觀人員下ノ如シ
參觀人員 2825名

第四 技術員養成

本年度ニ於テ縣農會ノ委託ニヨル町村農會技術員ヲ養成セル者下ノ如シ

名西郡石井町	堀口留五郎
美馬郡八千代村	武田宇佐雄
那賀郡椿村	武田優
同郡富岡町	小塚喜義

第五 報告類發刊ニ關スル件

大正九年度業務功程	600部
試驗場要報	3150部

第六 本場職員氏名 (大正十年五月三十日現在)

分擔事務	職名	氏名
種藝部主任青種係	場長技師	間瀬鉦太郎
化學部主任	技師	戸崎野市次郎
化學部係	技師	東園田音次郎
病虫部主任	技師	川崎忠四郎
種藝部原種關係主任	技師	高石萬兵衛
園藝部主任	技師	鎌田理一
種藝部原種關係主任	技師	次原茂六
庶務會計係主任	主事	森井與平
種藝部	助手	河野孫吉
同	助手	岡本清一
病虫部	助手	關春江



大正12年3月15日印制

大正12年3月25日發行

德島縣農事試驗場

德島市富田浦町西富田

千參百六拾九番地

印刷人 佐藤藏次郎

德島市大工町字南大工町

百壹番地ノ三

印刷所 奥山印刷所

14,24

350

終